

兵庫教育大学附属中学校『防災学習』

3年 番名前

◎日時 令和3年1月18日(月) 5限・6限

○内容：第1部 神戸新聞社記者(三好 正文 氏・名倉あかり 氏)による講演
「震災報道を通じて阪神・淡路大震災を伝える意義」

第2部 パネルディスカッション

パネラー：三好氏、名倉氏、本校教員・雨宮、生徒3名(2年生)、司会進行：安永
テーマ「震災報道を通じて、私たちが学ぶことは何か」

◎第1部の講演を聴いて、「震災報道を通じて、伝える意義」について、大事なことや心に残ったこと、気になったことを書きましょう。

地震が起こったときに、何かにつかまりたいが、周りの頑丈な物も全てこわれたり移動していいく。私も1回震度7を体験するのをしてみたが本当に立っていられなく、手すりがありながらそれでもとても危なかった。でも実際だと固定された物が無かった場合や、物が倒れてきたりすると本当に生きているのが奇跡なんだなと思いました。

◎第2部のパネルディスカッションを聴いて、「震災報道を通じて、私たちが学ぶことは何か」について、大事なことや心に残ったこと、気になったことを書きましょう。

地震の恐しさ。時間が過ぎていくごとに実際に体験していった人が少なくなくなっている。この震災は一生語りつけていい出来事だから、当時のことをしっかりと聞き、自分もですが、地震を体験していない人達に話していくことが大切。

◎最後に、本日の「防災学習」の感想を書きましょう。

この震災は決して忘れてはいけない出来事なので、親や周りの人には話をきいていただき、自分の部屋は大丈夫かみんなおしゃべりしてきました。

兵庫教育大学附属中学校『防災学習』

3年

番名前

◎日時 令和3年1月18日(月) 5限・6限

○内容：第1部 神戸新聞社記者(三好 正文 氏・名倉あかり 氏)による講演

「震災報道を通じて阪神・淡路大震災を伝える意義」

第2部 パネルディスカッション

パネラー：三好氏、名倉氏、本校教員・雨宮、生徒3名(2年生)、司会進行：安永

テーマ「震災報道を通じて、私たちが学ぶことは何か」

◎第1部の講演を聴いて、「震災報道を通じて、伝える意義」について、大事なことや心に残ったこと、気になったことを書きましょう。

実際に体験ていなかつて本当の怖さがわからなかつて
新聞やニュースなどを見て、被災した人たちからが説
きてくれたことが大切だと思ひました。

◎第2部のパネルディスカッションを聴いて、「震災報道を通じて、私たちが学ぶことは何か」について、大事なことや心に残ったこと、気になったことを書きましょう。

実際に見たときに何とか詳しいところまでわかつて、す
べて状態でわかつたら、今日がショッキングでは
て準備が必要。

◎最後に、本日の「防災学習」の感想を書きましょう。

毎年この時期に行かう。防災学習がめんどうだ
今年は、ちがう視点で「災害とけんか」とがで
キにからずから見て、実際に被災して
入らぬよう説きくと本家のがうらいでや
わからた。30年間の間にわざといわれてひ
く悔やんで、いかせらんだけのかわつた。

兵庫教育大学附属中学校『防災学習』

3年

名前

◎日時 令和3年1月18日(月) 5限・6限

○内容：第1部 神戸新聞社記者(三好 正文 氏・名倉あかり 氏)による講演
「震災報道を通じて阪神・淡路大震災を伝える意義」

第2部 パネルディスカッション

パネラー：三好氏、名倉氏、本校教員・雨宮、生徒3名(2年生)、司会進行：安永
テーマ「震災報道を通じて、私たちが学ぶことは何か」

◎第1部の講演を聴いて、「震災報道を通じて、伝える意義」について、大事なことや心に残ったこと、気になったことを書きましょう。

自分が以前まで思っていた記者の仕事は、阪神・淡路大震災について取材し新聞にのじるだけだと思っていました。でも名倉さんと三好さんの話をきいて記者という仕事を遺族などにもらった大切さなどをみんなに伝えようと。もしも、もしも、遺族からたくさん学ばせて貰えたことがありました。

◎第2部のパネルディスカッションを聴いて、「震災報道を通じて、私たちが学ぶことは何か」について、大事なことや心に残ったこと、気になったことを書きましょう。

へに残りました。そこには三好さんがいた。災害から何が学ばないといけない、という言葉です。災害が起るとどうすればいいか考えていました。

◎最後に、本日の「防災学習」の感想を書きましょう。

この防災学習でたくさんのことを学ぶことができました。自分が地震を体験することはあまりうごりないかもしれないけど地震の被害にあつた後、いつかと後世にうだえていきます。

兵庫教育大学附属中学校『防災学習』

3年 番名前

◎日時 令和3年1月18日(月) 5限・6限

○内容：第1部 神戸新聞社記者(三好 正文 氏・名倉あかり 氏)による講演
「震災報道を通じて阪神・淡路大震災を伝える意義」

第2部 パネルディスカッション

パネラー：三好氏、名倉氏、本校教員・雨宮、生徒3名(2年生)、司会進行：安永
テーマ「震災報道を通じて、私たちが学ぶことは何か」

◎第1部の講演を聴いて、「震災報道を通じて、伝える意義」について、大事なことや心に残ったこと、気になったことを書きましょう。

名倉あかりさんは自分が取材をしたときの話を聞いて、確かに自分が取材をする立場になったときに大切な人を亡くして泣き崩れいる人を取材するのは、とても気がひいたと思う。取材をするべき人が一番辛い思いをした人というかは、取材の難しさというものがわかると思う。

新聞は私達が確実を得るために大切なライフラインである。それを書く記者には何がなんでも伝えていかなければならぬのだという強い思いは、これから次の世代へと繋がっていく自分たちも持ていらねばだと感じた。

◎第2部のパネルディスカッションを聴いて、「震災報道を通じて、私たちが学ぶことは何か」について、大事なことや心に残ったこと、気になったことを書きましょう。

私たちは災害について学はないけれどもならないと思う。それはこれから生きていく私達に課せられた義務であり、私達に与えられた権利だと思う。これまでの過去を学び、次の世代へ伝えることは、自分たちの未来を守ることであり、誰かの未来を守ることでもあると思う。仮に震災が起きたときに犠牲を一人でも減らし、苦しい中でも生きていけるよう、自分達が変わっていかなければならぬ、と思う。

◎最後に、本日の「防災学習」の感想を書きましょう。

これまで何度も震災について学んできたけれども、今回はいつもと違った方法での防災学習で、いつもよりもよく考えさせられたと思う。これから自分達が生きていく上で知ることはもちろん次の世代の人へ伝えていくことも大事だなと感じた。もうすぐ起ころと思われている「南海トラフ地震」で、自分にとって大切な人を亡くすことにぬかましましない、自分が死んで周りの人へ影響が及ぶかもしれない、みんなが「よかれたね」と言い合えるように、今から備えをしたりすること、「減災につなげいかなければ」と感じた。

兵庫教育大学附属中学校『防災学習』

3年

番名前

◎日時 令和3年1月18日(月) 5限・6限

○内容：第1部 神戸新聞社記者(三好 正文 氏・名倉あかり 氏)による講演

「震災報道を通じて阪神・淡路大震災を伝える意義」

第2部 パネルディスカッション

パネラー：三好氏、名倉氏、本校教員・雨宮、生徒3名(2年生)、司会進行：安永

テーマ「震災報道を通じて、私たちが学ぶことは何か」

◎第1部の講演を聴いて、「震災報道を通じて、伝える意義」について、大事なことや心に残ったこと、気になったことを書きましょう。

新聞

→ 読者をはじめとする内閣、死者数について伝えるので「1月18日で避難所151、7=4の情報もつたれる

当時の人は「1月18日で新聞が一番の情報だ」と

→ 伝えられたのはいつでない、当私はどちらで生きる事ができるか?

→ 新聞に即かられて人を「1月18日でさん」と

「次は私がやる伝えたいが1月18日はけはす」「どちらでない

→ どう伝えていくか」「体験してみるか私はどちらでない

◎第2部のパネルディスカッションを聴いて、「震災報道を通じて、私たちが学ぶことは何か」について、大事なことや心に残ったこと、気になったことを書きましょう。

体験して車で「ある人が1月18日で1月18日で車の中で体験して車といつても

私がどちらでない行動していくか車の車で1月18日と車といつても

そして、忘れてはいけない1月18日、1月18日で車の車で1月18日でその

かの車で1月18日で車の車で1月18日で1月18日で

これから私がどちらでないうけて伝えていくか車の車で1月18日

予測されて1月18日地震が、1月18日で1月18日で車の車で1月18日以上の大被害

車の車で車の車で行動して1月18日と車の車で1月18日

◎最後に、本日の「防災学習」の感想を書きましょう。

私が1月18日死ぬまでには絶対1月18日は大きな地震があると想うので1月18日で

も1月18日今も日常生活でも車で1月18日と車で1月18日

本当に地震がある時に友達や家族の中で死んでしまう人が出で

はしく1月18日でみんな1月18日で1月18日もしかり備えておしゃいと車の車で1月18日

避難する事はとても大きて車で1月18日と車の車で1月18日で1月18日で死んで車の車で1月18日

どんな車で1月18日で1月18日で1月18日で自然災害を止めよ車の車で1月18日

こそ自分の命1月18日自分で守るとして周りの人と車の車で1月18日

1月18日と車の車で1月18日

兵庫教育大学附属中学校『防災学習』

3年 番名前

◎日時 令和3年1月18日(月) 5限・6限

○内容：第1部 神戸新聞社記者(三好 正文 氏・名倉あかり 氏)による講演

「震災報道を通じて阪神・淡路大震災を伝える意義」

第2部 パネルディスカッション

パネラー：三好氏、名倉氏、本校教員・雨宮、生徒3名(2年生)、司会進行：安永

テーマ「震災報道を通じて、私たちが学ぶことは何か」

◎第1部の講演を聴いて、「震災報道を通じて、伝える意義」について、大事なことや心に残ったこと、気になったことを書きましょう。

震災を伝える時に大切なものが、被災者の方々と人とのかかり合いう事で、相手の気持ちをいかに上手に、読書に伝える事が出来る。

◎第2部のパネルディスカッションを聴いて、「震災報道を通じて、私たちが学ぶことは何か」について、大事なことや心に残ったこと、気になったことを書きましょう。

田中さんが、写真を使って発表していたので分かりやすかった。

新聞をつくるためには写真もどうないといけない。

あかりさんは、取材をする事に、相手の気持ちを考えながら最後まで聞く事が大切。

実際に地震が起きた時に、自分の命を守れる行動ができるのか。

今、珍重している物を見て何をかんじる事が出来るのか。

◎最後に、本日の「防災学習」の感想を書きましょう。

名倉あかりさんが、新聞をつくるかわとして何を大切にしている事が分かりました。

今この2時間で覚んだ事を、これから的生活でどのように活用していく事ができるのか、この覚んだ事を尽可能多くの人に伝える事が出来るのかが大切に思ってきました。

兵庫教育大学附属中学校『防災学習』

3年

番名前

◎日時 令和3年1月18日(月) 5限・6限

○内容：第1部 神戸新聞社記者(三好 正文 氏・名倉あかり 氏)による講演

「震災報道を通じて阪神・淡路大震災を伝える意義」

第2部 パネルディスカッション

パネラー：三好氏、名倉氏、本校教員・雨宮、生徒3名(2年生)、司会進行：安永

テーマ「震災報道を通じて、私たちが学ぶことは何か」

◎第1部の講演を聴いて、「震災報道を通じて、伝える意義」について、大事なことや心に残ったこと、気になったことを書きましょう。

・震災からたどりに新聞で「このせいでお詫びを乞うのは、自分ではありやしない」としては「なぜ考えてますか?」でも実際には多くの時に詫びを乞うから被災者にとっても大変なんだと思いた。

・自分たちは阪神・淡路大震災を知らなければ体験したことないから、かんたんに次の世代に伝えていくには言えない。自分たちが「知ってない」と「1995年1月17日」に「かにり約6000人以上の人たちが死んだ」と「たことしか知らない」。それくらいいが知らず「内容で次の世代に伝えていかなから、自分は被災した人たちの気持ちをどうするか同じ感情にはなるのは難い」とか「自分で自分にがんばる。そのためヒーローを体験した本の人たちが生きているうちに自分が大変だと思ふ」でした。

◎第2部のパネルディスカッションを聴いて、「震災報道を通じて、私たちが学ぶことは何か」について、大事なことや心に残ったこと、気になったことを書きましょう。

・自分たちが実際に体験したかったのは「大震災」だから、準備をしておこう。
「大震災」は、行動力で何をすればいいか、どの時刻までに何をすればいいか、自分で行動できるかなどから、行動できることから何事かと何事かに向けて準備を行なうことが大切だと感じました。

・大地震からたどりに「自分も助けてもらいたい」と「自分自身が自分でどうにかしておれ」と「自分自身で何をすればいいか」。

◎最後に、本日の「防災学習」の感想を書きましょう。

・大地震を体験して人たちは「かんじん」派、つまり「いかから、自分たちから生きてる」の考え方を持った。1月17日に近づくにつれて気持ちが複雑になってたり不安がある。自分で「ここで」「いつ」「どうしたら」、それが「どうあるべき自分で知りたから」とか「かんじた」。

・震災でかつたことで伝えてきた「大震災」は「自分たちで何をすればいいか」から、時間軸から、たどりても知りたかった。

・自分たちが自分たちを中心として自分で「生きる」ことを中心にしてきた。これからどうだ、といつのか、「大震災」から「自分たちが生きる」から「行動的」にいかから「自分たちが自分たちで動いて1月17日をしたい。自分たちが生きる」「1月17日は正直のところ無理があるから、これからは、まだんぜんじを人に伝えてみようかも」「たしかにかうす」として1月17日。

兵庫教育大学附属中学校『防災学習』

3年

番名前

◎日時 令和3年1月18日(月) 5限・6限

○内容：第1部 神戸新聞社記者(三好 正文 氏・名倉あかり 氏)による講演
「震災報道を通じて阪神・淡路大震災を伝える意義」

第2部 パネルディスカッション

パネラー：三好氏、名倉氏、本校教員・雨宮、生徒3名(2年生)、司会進行：安永

テーマ「震災報道を通じて、私たちが学ぶことは何か」

◎第1部の講演を聴いて、「震災報道を通じて、伝える意義」について、大事なことや心に残ったこと、気になったことを書きましょう。

- 「知ったかぶりをしながら取材のときは、いかがでいる。」
- 「農家の知らない世代が、次の世代にも伝えたいかなければならない。」
- 「倒壊した家に挟まれて助かりやういのは72時間以内」

◎第2部のパネルディスカッションを聴いて、「震災報道を通じて、私たちが学ぶことは何か」について、大事なことや心に残ったこと、気になったことを書きましょう。

- 「逃げる場所など、いつか両親と話さうと思っていたけどできないので、『今日話す』と決めて帰って欲しい。」
- 「あの日」には、この年まで生きていた人たちのことを忘れないという意味がある
- 「防災省をつくってほしい。」

◎最後に、本日の「防災学習」の感想を書きましょう。

今日の講演で初めて見た当時の写真がいいはあってその上、映画？の地震がおこっているシーンを見て減災をしていないとこれからある南海トラフが、それでも向けての対策不安に思った。だからこそ、自分の家の防災グッズを取り出せないようにしたり、タンスや食器棚などがたれにくいように固定、寝る場所を工夫など今日から取り組んでいかなければいけないと思った。

兵庫教育大学附属中学校『防災学習』

3年

番名前

◎日時 令和3年1月18日(月) 5限・6限

○内容：第1部 神戸新聞社記者(三好 正文 氏・名倉あかり 氏)による講演
「震災報道を通じて阪神・淡路大震災を伝える意義」

第2部 パネルディスカッション

パネラー：三好氏、名倉氏、本校教員・雨宮、生徒3名(2年生)、司会進行：安永

テーマ「震災報道を通じて、私たちが学ぶことは何か」

◎第1部の講演を聴いて、「震災報道を通じて、伝える意義」について、大事なことや心に残ったこと、気になったことを書きましょう。

名倉さん「知りながら泣いてしまった」という言葉に共感しました。

1.17はそれぞれの人生の中において、他人の人生と自分の人生は「わかっていてればいい」という考え方
私たちは経験していくからこそ、「わかる」とではなく「知る」としかできません

→知れる情報で知る必要がある

他の命ももちろん大事、自分の命を守ることも最優先

◎第2部のパネルディスカッションを聴いて、「震災報道を通じて、私たちが学ぶことは何か」について、大事なことや心に残ったこと、気になったことを書きましょう。

「体験した人にしか分からぬこと、だからこそやるべき、体験した人の声を聞き逃してはいけない

つまり自分がもし被災した時は体験談を他の人に伝えるのが良い?

私は親しい人を失ってしまったとき、その人が生きていた事実を隠してはいけない

取材すると「私は死んでると思う

→でも実際に体験したことその時の気持ちとは今からしない

◎最後に、本日の「防災学習」の感想を書きましょう。

震災報道は、被災者や遺族を取り扱って気持ちを載せると「完結させてはいけないと感じました。辛い経験を語り、他の人に伝えてくれたからこそ、「もう一度と同じ思いはさせたくない」という防災意識に繋げられるようだ報道が「必要だ」と思います。

後悔してからでは遅いので、日頃から「少しやりすぎかも」というくらいの備えをする価値は十分にあります。家・学校の両方で日々防災意識を高めていきます。

兵庫教育大学附属中学校『防災学習』

3年

番名前

◎日時 令和3年1月18日(月) 5限・6限

○内容：第1部 神戸新聞社記者(三好 正文 氏・名倉あかり 氏)による講演
「震災報道を通じて阪神・淡路大震災を伝える意義」

第2部 パネルディスカッション

パネラー：三好氏、名倉氏、本校教員・雨宮、生徒3名(2年生)、司会進行：安永
テーマ「震災報道を通じて、私たちが学ぶことは何か」

◎第1部の講演を聴いて、「震災報道を通じて、伝える意義」について、大事なことや心に残ったこと、気になったことを書きましょう。

震災で大切な人たちのためにも
しっかり生きていくと思いました。

◎第2部のパネルディスカッションを聴いて、「震災報道を通じて、私たちが学ぶことは何か」について、大事なことや心に残ったこと、気になったことを書きましょう。

みんなが震災に対する意識がめちゃくちゃあるなって思って
すごく感動しました。

◎最後に、本日の「防災学習」の感想を書きましょう。

ぼくも日々にこもる震災について教えてくれたこの防災学習を通じた震災について
知りたのしい人が人に伝えたいです。

兵庫教育大学附属中学校『防災学習』

3年 番名前

◎日時 令和3年1月18日(月) 5限・6限

○内容：第1部 神戸新聞社記者(三好 正文 氏・名倉あかり 氏)による講演
「震災報道を通じて阪神・淡路大震災を伝える意義」

第2部 パネルディスカッション

パネラー：三好氏、名倉氏、本校教員・雨宮、生徒3名(2年生)、司会進行：安永
テーマ「震災報道を通じて、私たちが学ぶことは何か」

◎第1部の講演を聴いて、「震災報道を通じて、伝える意義」について、大事なことや心に残ったこと、気になったことを書きましょう。

教訓として活かすことの大切さを思つた。
そして、子どものそばのベットで寝ていたら重傷だったという
言葉に、少し状況が変わっただけで、命の有無が決まってし
まうんだなと改めて地震の怖さを感じた。

◎第2部のパネルディスカッションを聴いて、「震災報道を通じて、私たちが学ぶことは何か」について、大事なことや心に残ったこと、気になったことを書きましょう。

常日頃から、いじめることは本当に大切だなと思った。
小さいことからはじめることが大切。
震災を経験していない世代がそれを次の世代に伝えたり
めには被災者の人々から学び、感じたりするといつても
いう責任感を感じた。

◎最後に、本日の「防災学習」の感想を書きましょう。

いい3時間+情報収集+まとめた有意義な時間だったので
人生を大切に今を生きたいと思います。

兵庫教育大学附属中学校『防災学習』

3 年

名前

◎日 時 令和3年1月18日(月) 5限・6限

○内容：第1部 神戸新聞社記者（三好 正文 氏・名倉あかり 氏）による講演
「震災報道を通じて阪神・淡路大震災を伝える意義」

第2部 パネルディスカッション

パネラー：三好氏、名倉氏、本校教員・雨宮、生徒3名（2年生）、司会進行：安永
テーマ「震災報道を通じて、私たちが学ぶことは何か」

◎第1部の講演を聴いて、「震災報道を通じて、伝える意義」について、大事なことや心に残ったこと、気になったことを書きましょう。

震災をしながら世代が1つ、しなり世代に伝えようとすることを考えなければならなくなってしまった。だからこそ、被災者のリアルな声を届けなければいけないということを、実感させられました。そのために、うごきの手がこんがら僕達にちがないうまな苦悩を、いつも心からしてこだわると想像もできました。それでも新聞が正確でなくさん
の情報を取りながらこそ、僕達は安心して暮らすことができるって、震災に立ち向かうことばかりでなく、新聞を見て感じました。

◎第2部のパネルディスカッションを聴いて、「震災報道を通じて、私たちが学ぶことは何か」について、大事なことや心に残ったこと、気になったことを書きましょう。

◎最後に、本日の「防災学習」の感想を書きましょう。

名倉さんの映像を見た時も思いましたが、記者の方々の仕事は本当に大変なんだと感心しました。体力的力こそもそうですか、精神的力量について、西に「震災」という大きなものに対して、そのに向かうかなかれはいかないかと感じた。その苦悩を想像しただけでも大変だらうと思います。そしてそんな苦労を筆者で得た教訓と、今から思ふと、次にこんな災害が起きたとき、せの中からどうかが想像できえてくれて、とてもありがたかったです。次にこんな災害が起きたとき、ちゃんと準備をしておこうと思いまして。

兵庫教育大学附属中学校『防災学習』

3年 番名前

◎日時 令和3年1月18日(月) 5限・6限

○内容：第1部 神戸新聞社記者(三好 正文 氏・名倉あかり 氏)による講演

「震災報道を通じて阪神・淡路大震災を伝える意義」

第2部 パネルディスカッション

パネラー：三好氏、名倉氏、本校教員・雨宮、生徒3名(2年生)、司会進行：安永

テーマ「震災報道を通じて、私たちが学ぶことは何か」

◎第1部の講演を聴いて、「震災報道を通じて、伝える意義」について、大事なことや心に残ったこと、気になったことを書きましょう。

あたり前の日常がいつ何で変わってしまったのかと何を、誰も知らなかったことや何が酷だったと思った。いつも毎日「1日を大切に」ということを言っていたし、実際におきつけていたり命からぬく何がやがである。一瞬にして全ての形を変えてしまうといふ地震の怖さ。「知る」→「つまらない」→「伝える」震災を知らなければ私達にとって最低限の出来ることだと思つ。火事やタバコで消火器まであればいい、避難難所で風邪をひいててもいい、三日以上救出されず死んでしまうといふ、自分達の1つ1つの行動によって間接的に命を奪つてしまふ悲しさ。新聞に2,711人を死んだことや1,000人以上死んだこと、そのニュースで涙を流す人もいる。誰にも夢がある。だからこそと思う。(こんな簡単に表現で「うそ」と「嘘」と「うそ」と「嘘」)

◎第2部のパネルディスカッションを聴いて、「震災報道を通じて、私たちが学ぶことは何か」について、大事なことや心に残ったこと、気になったことを書きましょう。

「オキナワ写真を撮ることに夢中でした。」「17日」と忘れていた子が、「11日」の前までのことを忘れていた。碑の作り方で意味を知ることで震災へ。ハサードマップは過去から学んでいたとしている。1つ1つの自然災害を知ることやが重要。私の家族では、避難難所等について「ほとんどなく」決まって27日=1778の日で、地震について今まで全くしてしまっていた部分であっても自分で覚えていた。こんなに毎年必死に過去世のことを語り? 私達に伝えようとしたのに、しゃべりを詰め合っている。

◎最後に、本日の「防災学習」の感想を書きましょう。

三好さんや三好さん、1つ1つの自然災害を知ると「うそ」と「嘘」と「うそ」と「嘘」の話、小学5年生くらいの時の確か和歌山県か震源の地震、東日本大震災、阪神淡路大震災、熊本大地震。
G11いや、私が1778年、4つのうち、371は自分が生きているうちに死んでいた。しかし、しかし自分が1778の日、F4考えたと、今まで毎年地震について考えたが全く死んでいた1778年、地震をやがて気が付いた1778年、全くやがて死んでいたと感じた。私は1778年、反対、自分が家族を守れる自信は1778年と、自分が相手が生きている331はTODはLFGと思つた(震災に向かっての考え方を行方不明と)

この1日1778年、地震に向かう恐怖心を大きくさせたので1778年、するとこれから意識して、私達もいつか地震について語れようとする責任感を感じて、またうらやましく思つた。

兵庫教育大学附属中学校『防災学習』

3年

番名前

◎日時 令和3年1月18日(月) 5限・6限

○内容：第1部 神戸新聞社記者(三好 正文 氏・名倉あかり 氏)による講演
「震災報道を通じて阪神・淡路大震災を伝える意義」

第2部 パネルディスカッション

パネラー：三好氏、名倉氏、本校教員・雨宮、生徒3名(2年生)、司会進行：安永

テーマ「震災報道を通じて、私たちが学ぶことは何か」

◎第1部の講演を聴いて、「震災報道を通じて、伝える意義」について、大事なことや心に残ったこと、気になったことを書きましょう。

心に残ったことは2つあります。

1つ目は名倉さんの新聞記者としての志です。被災者、ご遺族の方にインタビューをするとき「私は震災を知りません。失礼なことを聞くかもしれません」と必ず言う意志に尊敬しました。

したかぶりをしない
2つ目は震災当時の人は高齢の人が多くなる人もいる。そうなると伝えることができなくなってしまう。そうならないように、若者がこれから世代に伝えていかないといけない姿勢にすごいと思った。

◎第2部のパネルディスカッションを聴いて、「震災報道を通じて、私たちが学ぶことは何か」について、大事なことや心に残ったこと、気になったことを書きましょう。

やっほり、自然災害、コロナでも差別してはいけないということを知った。

新聞記者は1度話してくれた人には最後まで聞かなくてはならないといふことに素晴らしいを感じました。

◎最後に、本日の「防災学習」の感想を書きましょう。

実際に震災を身近に体験した人と、体験していない両者の説明を聞いて思ったのが、これからは自分たちが地震のおどろきを伝えていかなくてはならない。

なので今日お2人の話はとても自分のためになったし、これを知って周りの人にも伝えていけると思いました。

兵庫教育大学附属中学校『防災学習』

3 年 番 名前

◎日 時 令和3年1月18日(月) 5限・6限

○内容：第1部 神戸新聞社記者（三好 正文 氏・名倉あかり 氏）による講演

「震災報道を通じて阪神・淡路大震災を伝える意義」

第2部 パネルディスカッション

パネラー：三好氏、名倉氏、本校教員・雨宮、生徒3名（2年生）、司会進行：安永

テーマ「震災報道を通じて、私たちが学ぶことは何か」

◎第1部の講演を聴いて、「震災報道を通じて、伝える意義」について、大事なことや心に残ったこと、気になったことを書きましょう。

震災を知り世人と、始めて言ふことを、おこなつる。 これが「いわゆる
震災の時代」。 震災を知らぬ世人は、「震災」と云ふ言葉を、
この時代には「時代の風雲と時代の風雲」。
震災には、とも、多くの内閣の動向と可能性も。

◎第2部のパネルディスカッションを聴いて、「震災報道を通じて、私たちが学ぶことは何か」について、大事なことや心に残ったこと、気になったことを書きましょう。

通过第10课的阅读，我们学习了“学而时习之，不亦说乎”。重点在于“时习”，学习“学而时习之”。

$\frac{\partial f}{\partial x} = f_1 \cos \theta + f_2 \sin \theta$, 故 f_x 是 θ 的 $f_1 - f_2$ 之。換言之, f_x 在 $s^2 = r^2 \cos \theta$ 及 $t^2 = r^2 \sin \theta$ 時。

由 t_1 到 t_2 時間 $\Delta t = t_2 - t_1$ 為 t_1 與 t_2 間的時間差，即 t_2 是 t_1 後 Δt 的時間。

◎最後に、本日の「防災学習」の感想を書きましょう。

172. 爲二人制取材而行之際，即知其為二子之子也。此亦是EP所
謂「種」子之子也。而「種」字在古文書中，即為數字「二」之子也。故
謂「種」子者，即「二」子也。而「二」子者，即「二」之子也。故
謂「種」子者，即「二」子也。而「二」子者，即「二」之子也。

兵庫教育大学附属中学校『防災学習』

3年 番名前

◎日時 令和3年1月18日(月) 5限・6限

○内容：第1部 神戸新聞社記者(三好 正文 氏・名倉あかり 氏)による講演
「震災報道を通じて阪神・淡路大震災を伝える意義」

第2部 パネルディスカッション

パネラー：三好氏、名倉氏、本校教員・雨宮、生徒3名(2年生)、司会進行：安永
テーマ「震災報道を通じて、私たちが学ぶことは何か」

◎第1部の講演を聴いて、「震災報道を通じて、伝える意義」について、大事なことや心に残ったこと、気になったことを書きましょう。

これから時代は阪神淡路大震災を経験していない
私たちがひきつぐ。残っている資料や語りだけを頼りに記憶を
残してこの先もすとひきつぐなければならぬ。(義務のようなもの)
その意味は、これから的生活にいかして災害に備えたり、日本人として
忘れてはいけない記憶だ。たりではないか?
震災を記憶から消すということは、被災者の思いや実態を忘れるということ
だと思う。震災の教訓はこれからの自分の未来に大きくかかわっている
のではないか?

◎第2部のパネルディスカッションを聴いて、「震災報道を通じて、私たちが学ぶことは何か」について、大事なことや心に残ったこと、気になったことを書きましょう。

この震災の記憶を温め、自分の胸に、少しでも残るきざむだけれど
いけない。限りある資料で被災者の思いを今更にしてはすらなり。
誤た者にはいたらいい、といふこと。ほんの少しあは“知る”ことしか
できない。(阪神淡路大震災を主駆すること見ておる)
自分の人生や大切な人を守るためにこの記憶は残す必要がある。
(被害を最小限にする)自分を助けられる日、自分、そして協力して
誰かを救えるのもしかすると自分がのかたしれない。

◎最後に、本日の「防災学習」の感想を書きましょう。

記者の取材の難しさの一つでもある(と思ふ)被災者の心情のところの方。
取材を受ける際に感情があふれる方には、それだけの記憶や災いが
つまつたいるからだと思う。だからこそこの震災を知り次世代にうけ渡
が必要があると考えた。あの日、かさす言葉の先には元々から大方、一人一人の
絆くはがだ。た人生がこれまででいる。数字だけを残すのではなし。
実態や、物語の方の思いを、私たちは多少は受け取るが、受け取らぬ、た
もう一度と自分と同じようす(悲しい、悔しい、未練)思いを味わってほしくない。
語り手が語るいわれはここにおるのではなかいか?

限りある時間で最も大切な自分のものにすら、もう一度と戻らざる日の前に
日々を大切に、一心に生きることが叶かなつた方へ祈ります。それでも日供養の
がむしれ下さい。

兵庫教育大学附属中学校『防災学習』

3年 番名前

◎日時 令和3年1月18日(月) 5限・6限

○内容：第1部 神戸新聞社記者(三好 正文 氏・名倉あかり 氏)による講演

「震災報道を通じて阪神・淡路大震災を伝える意義」

第2部 パネルディスカッション

パネラー：三好氏、名倉氏、本校教員・雨宮、生徒3名(2年生)、司会進行：安永

テーマ「震災報道を通じて、私たちが学ぶことは何か」

◎第1部の講演を聴いて、「震災報道を通じて、伝える意義」について、大事なことや心に残ったこと、気になったことを書きましょう。

知らない世代(震災)から知らない世代へ伝える時代になっているのは時間が流れるの仕方ない、でも伝えることに意味がある。震災から伝えたいことは、ただ多勢の人が亡くなってしまったのではなく、その亡くなった人々に大切な人生があったこと。それなくさないようにするために災害から身を守らなければならぬという意識を強くしなければならないということだ。過去は変えられなくても過去から学び、未来のために行動することはできる。震災があった日の朝もいつもと同じ日常だった。そのいた場所、していたことに、運良く生きのびた人もあと少し時間がちがったら助かってかもしれないという人もいる。何が起きるかわからないが現実を受け入れて未来のために動かなければ"ならない。

◎第2部のパネルディスカッションを聴いて、「震災報道を通じて、私たちが学ぶことは何か」について、大事なことや心に残ったこと、気になったことを書きましょう。

震災の被害にあった方々の気持ちちは「同じような気持ちを他の人に味わってほしくない」これをきっかけに被害が「小さく見えるようそれが取り組んでほしい」。誰もが現実にあったことを無駄にしてほしくないと思っている。その現実に走きたこと、それをきっかけにできた象徴、行動の意味をしっかり理解することが大切。具体的に今動けることは備える(食料、水、ランプなど)こと、話し合うこと。今、便利なスマホがあるが、それは充電がなければ意味がない。しっかり自分の頭を使い自分や周りを助けたら、それが「無駄にせず庄かしい」ということにつながる。

◎最後に、本日の「防災学習」の感想を書きましょう。

「震災」がテーマなのでどうして「地震が起きたら…」と考えていました。でも今、新型コロナウイルスがはやっていて本当に今こそ生き残るとまだ感じさせられました。日常生活がある1日で変わってしまった、少しずつ変わってしまったのですが、どの日も大切し常に学び、改善して生きようとしていると思いました。それは気持ちの面で「しんどいかもしれないけれど受け入れなければ前に進めない」ということだろうと思います。

兵庫教育大学附属中学校『防災学習』

）年 ）組 番 名前

◎日時 令和3年1月18日(月) 5限・6限

○内容：第1部 神戸新聞社記者(三好 正文 氏・名倉あかり 氏)による講演
「震災報道を通じて阪神・淡路大震災を伝える意義」

第2部 パネルディスカッション

パネラー：三好氏、名倉氏、本校教員・雨宮、生徒3名(2年生)、司会進行：安永
テーマ「震災報道を通じて、私たちが学ぶことは何か」

◎第1部の講演を聴いて、「震災報道を通じて、伝える意義」について、大事なことや心に残ったこと、気になったことを書きましょう。

新聞はただ情報を見せて伝えたらいいのではなく
本当に必要な情報を簡単にまとめさせて伝えることが
大切。

◎第2部のパネルディスカッションを聴いて、「震災報道を通じて、私たちが学ぶことは何か」について、大事なことや心に残ったこと、気になったことを書きましょう。

備えあれば優いなし。今まではないけれど
備えがある多少の被害はある。災害が起きた場合、そこからどうやっていかが大事だと思った。
まずは自分の身の安全を確保する。そうすると他人も助けられるがよ
い。他人にたよることはいけない。主が身は自ら取

◎最後に、本日の「防災学習」の感想を書きましょう。
災害が来たらあらかじめ自分にできることを身の安全
を確保するのが大事

兵庫教育大学附属中学校『防災学習』

③

番名前

◎日時 令和3年1月18日(月) 5限・6限

○内容：第1部 神戸新聞社記者(三好 正文 氏・名倉あかり 氏)による講演

「震災報道を通じて阪神・淡路大震災を伝える意義」

第2部 パネルディスカッション

パネラー：三好氏、名倉氏、本校教員・雨宮、生徒3名(2年生)、司会進行：安永

テーマ「震災報道を通じて、私たちが学ぶことは何か」

◎第1部の講演を聴いて、「震災報道を通じて、伝える意義」について、大事なことや心に残ったこと、気になったことを書きましょう。

震災を知らない→知ったばかりでない。

知らないは一世代の人がその下の知りうる世代へ語り継がなければならぬ。

安全・安心の情報を！(語者をはげませば元氣)

「まずは自分の命を守る」

◎第2部のパネルディスカッションを聴いて、「震災報道を通じて、私たちが学ぶことは何か」について、大事なことや心に残ったこと、気になったことを書きましょう。

親ともしゃべり話し合う。

「物」の由来を考える

1つ1つの災害から学んで教訓を次々と受け取る

◎最後に、本日の「防災学習」の感想を書きましょう。

阪神・淡路大震災を知らない人たちは「震災化してしまった。だからこそ、自分たちの世代が次へ語り承く必要があると思ふ。そのためにも、まずは自分が震災を知るべきだととも思いました。

兵庫教育大学附属中学校『防災学習』

3年

番名前

◎日時 令和3年1月18日(月) 5限・6限

○内容：第1部 神戸新聞社記者(三好 正文 氏・名倉あかり 氏)による講演

「震災報道を通じて阪神・淡路大震災を伝える意義」

第2部 パネルディスカッション

パネラー：三好氏、名倉氏、本校教員・雨宮、生徒3名(2年生)、司会進行：安永

テーマ「震災報道を通じて、私たちが学ぶことは何か」

◎第1部の講演を聴いて、「震災報道を通じて、伝える意義」について、大事なことや心に残ったこと、気になったことを書きましょう。

実際に震災を経験して語り手として伝える人もこれから伝えられなくなっていて、次伝えるのは震災を経験していない自分たちだと思うので、その当時のことをまずよく知ることが大切だと思いました。

◎第2部のパネルディスカッションを聴いて、「震災報道を通じて、私たちが学ぶことは何か」について、大事なことや心に残ったこと、気になったことを書きましょう。

いざいき地震が起きたり、災害が起こるかわからないので備えろべ王!!と思ひます
南海トラフ大地震は30年以内に起こる可能性が高いことが分かりますのでその地震をなぐすのは不可能だけでもうだけ備えたりすることは大切だ!!と改めて思いました

◎最後に、本日の「防災学習」の感想を書きましょう。

この話を聞いて地震の方もさすと"がわからだ"と思うので伝えることも大事だ!!
これからにも備えていかなければならぬと思ひました。

兵庫教育大学附属中学校『防災学習』

3年 番名前

◎日時 令和3年1月18日(月) 5限・6限

◎内容：第1部 神戸新聞社記者(三好 正文 氏・名倉あかり 氏)による講演
「震災報道を通じて阪神・淡路大震災を伝える意義」

第2部 パネルディスカッション

パネラー：三好氏、名倉氏、本校教員・雨宮、生徒3名(2年生)、司会進行：安永
テーマ「震災報道を通じて、私たちが学ぶことは何か」

◎第1部の講演を聴いて、「震災報道を通じて、伝える意義」について、大事なことや心に残ったこと、気になったことを書きましょう。

やっぱり6434人の人生が地震という災害によってアリニシタ
リ終わらせられるのはどうも思つた

◎第2部のパネルディスカッションを聴いて、「震災報道を通じて、私たちが学ぶことは何か」について、大事なことや心に残ったこと、気になったことを書きましょう。

「朝日を忘れない」というミニコメントのように表題から学べるではなく
物深くを感じなければならぬ

◎最後に、本日の「防災学習」の感想を書きましょう。

亡き方の思い、その時の記憶などといいいろいろなものをつないでいかなければならぬ。

兵庫教育大学附属中学校『防災学習』

3年

番名前

◎日時 令和3年1月18日(月) 5限・6限

○内容：第1部 神戸新聞社記者(三好 正文 氏・名倉あかり 氏)による講演

「震災報道を通じて阪神・淡路大震災を伝える意義」

第2部 パネルディスカッション

パネラー：三好氏、名倉氏、本校教員・雨宮、生徒3名(2年生)、司会進行：安永

テーマ「震災報道を通じて、私たちが学ぶことは何か」

◎第1部の講演を聴いて、「震災報道を通じて、伝える意義」について、大事なことや心に残ったこと、気になったことを書きましょう。人の人生があつたから、その人の人生を伝えなければいけない。

あたりまえに明日が来ると思っていた。
明日がしない日がある。

物が奇遇でくる、珍しくなる。
窓が全部開まる。

1日1日を大切に生きなければいけない。

震災がひとつのもののかわからせてくれます。

被災者にからむ以上のようではなく
分からぬから、新聞をつかって伝える。

ボランティアの人はあつたから。

涙を流す被災者に声をかけるのが正解か
声をかけたのが正解かのどちらからか。

震災を知らないと、震災の被害にあつた
ときに大変なことを思ふ。

被災者に伝えられた気持ちを読者に伝えたい。
震災を知らないから話を聞けるひとがいる。

被災者の気持ちを伝えねばならない。

震災を知らない人が知らない間に伝えられる時代。

いけばなしという記者の想い。

◎第2部のパネルディスカッションを聴いて、「震災報道を通じて、私たちが学ぶことは何か」について、大事なことや心に残ったこと、気になったことを書きましょう。

明日がある日がある。だから、1日1日大切に生きなければいけない。

震災とは、人の人生を終わらしてしまう。

何年たっても忘られぬけど、忘れてはいけない。

涙を流して話される被災者から、震災を知らない人が知ることで、
から、それをありやつて思われるから思ひます。

◎最後に、本日の「防災学習」の感想を書きましょう。

被災者の言葉は、心にささるものだ、かりだ、たけび、
その中でも「あたりまえに明日が来ると思っていた。」がささりました。
私も明日があることを思ってみたので、たしかに震災は人の人生を
簡単に終わらしてしまう。だからとても心に残りました。

今回の防災学習を通して、涙を流す被災者がいて、その気持ちを
伝えてくれる記者がいるから、知ることができるのだと思いました。
私はどうして苦しいことを記者さんは記事にするのか、できるのか
疑問だ。たけび、その苦しいことにほめる人の人生があるから、
その人の人生を伝えてみたのだと思って、たしかにそれが
記事にして、その人の人生を伝えようとしていたと思いました。

兵庫教育大学附属中学校『防災学習』

3年

名前

◎日時 令和3年1月18日(月) 5限・6限

○内容：第1部 神戸新聞社記者(三好 正文 氏・名倉あかり 氏)による講演
「震災報道を通じて阪神・淡路大震災を伝える意義」

第2部 パネルディスカッション

パネラー：三好氏、名倉氏、本校教員・雨宮、生徒3名(2年生)、司会進行：安永

テーマ「震災報道を通じて、私たちが学ぶことは何か」

◎第1部の講演を聴いて、「震災報道を通じて、伝える意義」について、大事なことや心に残ったこと、気になったことを書きましょう。

「明日があるとは限らないので一日一日本大切に生きなければならぬ。」

震災を伝えていく(震災を知らない人に)

安全を信頼しきる。

車両家も予想していかれ被害に遭う。

自分がこの立場に立つたらどう考えて取材していく。

取材されてくる人が少しでも話そうとしていると最後まで

話を聞くことが大切。

◎第2部のパネルディスカッションを聴いて、「震災報道を通じて、私たちが学ぶことは何か」について、大事なことや心に残ったこと、気になったことを書きましょう。

写真を撮って記事に載せることは役に立っているか考えたこともある。

被災した人に伝えるためにも写真を載せてわかりやすく新聞を書いてある。

家族と話しあって避難場所でモニターやかくと逃げ遅れにくくなる。

一つ一つの災害から学ぶことで災害が起ても被害が少なくて済む。

夜に避難指示を出してしまって被害が大きくなってしまったことがある。

◎最後に、本日の「防災学習」の感想を書きましょう。

地震は0にできるものではないので備えておけばやく避難することができる
でさうないようにしておけるように改めて思いました。

一つ大きな地震が起きたからながらこそ恐怖のものであって

避難訓練は冷静を保つためにも大切だと感じました。

反神淡路大震災では、多くの犠牲者や負傷者が出来てしまつたけど

これから同じような地震が起こっても犠牲者や負傷者を最低限に

抑えるために過去の地震から学んでいきたいたと感じました。

兵庫教育大学附属中学校『防災学習』

3年

番名前

◎日時 令和3年1月18日(月) 5限・6限

◎内容：第1部 神戸新聞社記者(三好 正文 氏・名倉あかり 氏)による講演
「震災報道を通じて阪神・淡路大震災を伝える意義」

第2部 パネルディスカッション

パネラー：三好氏、名倉氏、本校教員・雨宮、生徒3名(2年生)、司会進行：安永

テーマ「震災報道を通じて、私たちが学ぶことは何か」

◎第1部の講演を聴いて、「震災報道を通じて、伝える意義」について、大事なことや心に残ったこと、気になったことを書きましょう。

一部の講演をきいて阪神・淡路大震災で息子を亡くして人の取り扱いにいたきたあかりさんにとって大事にしていることは、私は地震を経験していないのでそれがわたくか教えてほしいと必ずしたくはりはしないことへかけていた。それがなくてなりとなつた人が生きているときはどんな様子だったか、このときここでは何の話をいがれたかうやで1歩1歩すつ震災に向こう合ふ気持ちも大事だと想はれて、被災者に当時のお話をうかがうときによく止める人たる者が生きを想い出されてこれ以上話せばいいとは「大丈夫ですね」と声かけ、あまり聞けてないかも(木下さん)、相手の気持ちを考え人に聞かれるのがいいに残ります。

◎第2部のパネルディスカッションを聴いて、「震災報道を通じて、私たちが学ぶことは何か」について、大事なことや心に残ったこと、気になったことを書きましょう。

今年はコロナの中学校では防災訓練ができないなくて、それでもやられたうが見てて見つけた避難経路などをどの時へいかいい対策で重ねておればいいかないと話を聞いて感じました。
減災で自分が何ができるか今までまことに教科で取り組んでいた阪神の備えが今どんどんレベルUP。(いいえれても死者はおさえられないにや、凶戦からもまれに時間で人びと命が守るために新しい対策が求められるとおこせる方法だと考えることでできるか) いは実行すると楽しいにつづりながら一緒に考えていけば何とかいい算かで一人ひとりを運動に活用可能な性を見えてからしっかり取り組みへきてと改めを感じ、いい学びだした。

◎最後に、本日の「防災学習」の感想を書きましょう。

防災で自分はこれまで(防災学習これまで)たくさん学びがあるけれども理科で地震や天氣の占星術をさりげなくこねとこねしながら起きたりなことがおこってしまうなど日々情報が得られて、そして今日の防災学習で更にいい学びができる実験などはこれがまた映像で見れて、考えて大切にすることをさせられて将来に役立つことができたと見つかりました。これは、これが真実は地震が来ると言ふれいほく、「いつ、どこで、何時、震度はどのくらいか?」、このはわからないけど「いつ、どんな大きな地震がきて耐えられるように対策をこうと思ひました。

兵庫教育大学附属中学校『防災学習』

3年

番名前

◎日時 令和3年1月18日(月) 5限・6限

○内容：第1部 神戸新聞社記者(三好 正文 氏・名倉あかり 氏)による講演

「震災報道を通じて阪神・淡路大震災を伝える意義」

第2部 パネルディスカッション

パネラー：三好氏、名倉氏、本校教員・雨宮、生徒3名(2年生)、司会進行：安永

テーマ「震災報道を通じて、私たちが学ぶことは何か」

◎第1部の講演を聴いて、「震災報道を通じて、伝える意義」について、大事なことや心に残ったこと、気になったことを書きましょう。

震災報道で聞かれて新聞はちゃんと報道するにあがく、

これが何年もたつと震災を経験したこの無の人経験してない人にどう荷がくんだかないと実感させられた

◎第2部のパネルディスカッションを聴いて、「震災報道を通じて、私たちが学ぶことは何か」について、大事なことや心に残ったこと、気になったことを書きましょう。

やはり地震が起きた時に自分はどうすればいいか、人を助けることができるのかやつづりこりうることかがはじめてはじめて感じた

そしてほんとうに人が死んだら、なぜ死んでるのかとわからないことが多かった

この学校(みらい館)コロナが出来て練習くれていいなって思ってからにわかれば向かうからいい

のでしょり

◎最後に、本日の「防災学習」の感想を書きましょう。

私は今日は防災で地震もかたひかれないで緊急集合表はかたひい

できぬいか、今まえたりつねにえり出さるのてこれがうもづかうたり。

兵庫教育大学附属中学校『防災学習』

35

番名前

◎日時 令和3年1月18日(月) 5限・6限

○内容：第1部 神戸新聞社記者(三好 正文 氏・名倉あかり 氏)による講演
「震災報道を通じて阪神・淡路大震災を伝える意義」

第2部 パネルディスカッション

パネラー：三好氏、名倉氏、本校教員・雨宮、生徒3名(2年生)、司会進行：安永

テーマ「震災報道を通じて、私たちが学ぶことは何か」

◎第1部の講演を聴いて、「震災報道を通じて、伝える意義」について、大事なことや心に残ったこと、気になったことを書きましょう。

・遺族への取材に正解も不正解もない。

・矢口たがり(がり)を(ない)

・震災を知らない私たちが次どうやって受け取り、どうやってつなぐ
がを、今から考えていいがないといけない。

◎第2部のパネルディスカッションを聴いて、「震災報道を通じて、私たちが学ぶことは何か」について、大事なことや心に残ったこと、気になったことを書きましょう。

・防災をする。一人でも多くの命を守るために、避難訓練練習を
(がり)する。

・一つ一つの災害から学び、自分の命を守る

・語りつがうれるものを経験にする。

◎最後に、本日の「防災学習」の感想を書きましょう。

今日、私が一番学んだことは、名倉さんが言っていた、震災を
知らない私たちが次の人たちにつなぎ、受けつくと言っていたこと
が、本日の学びだと感じた。今回の防災学習で受けつけ、まだ震災
を知らない、新たに命の人達にどんな状況だったのかなどを、
つなぐ仕事をまとまなくてはいけないと強く使命感をいたしました。

兵庫教育大学附属中学校『防災学習』

3年

番名前

◎日時 令和3年1月18日(月) 5限・6限

○内容：第1部 神戸新聞社記者(三好 正文 氏・名倉あかり 氏)による講演

「震災報道を通じて阪神・淡路大震災を伝える意義」

第2部 パネルディスカッション

パネラー：三好氏、名倉氏、本校教員・雨宮、生徒3名(2年生)、司会進行：安永

テーマ「震災報道を通じて、私たちが学ぶことは何か」

◎第1部の講演を聴いて、「震災報道を通じて、伝える意義」について、大事なことや心に残ったこと、気になったことを書きましょう。

「震災を体験して“なぜ人たちが”次の世代に伝え“なければならない”」
と“名倉さん”的話が印象にのこりました。実際に体験して“なぜ”分かった
“これまで”言語で“とは云ひかしがもしかた”“けり”、過去から、
学び、伝え、それは“守らる命をあさと思ふので”。
伝え“いたたけり”、そのためには“うつた場をもうけて、震災に
つれて”“いつ”も知識をもちた“と思ひました。

◎第2部のパネルディスカッションを聴いて、「震災報道を通じて、私たちが学ぶことは何か」について、大事なことや心に残ったこと、気になったことを書きましょう。

私はパネルディスカッションを通して、震災に“おもひき”ことが大切だ
と思ひました。名倉さんが言つて“いたたけり”、家族を話す
と思って“ても、”“心からしめたり、後回しにしてし
まう”“おもひ”後回しにせざり、そもそも“いたたけり”
話す“いたたけり”を思ひます。

◎最後に、本日の「防災学習」の感想を書きましょう。

1月17日 いたたけり「防災」につけて考えた感想です。
日頃から、「震災」につけて考え、おもえて“いたたけり”と思ひました。
そして、おもつた活動の中でも“いたたけり”を次の世代に伝え
てい“いたたけり”と思ひます。

兵庫教育大学附属中学校『防災学習』

3年 番名前

◎日時 令和3年1月18日(月) 5限・6限

○内容：第1部 神戸新聞社記者(三好 正文 氏・名倉あかり 氏)による講演
「震災報道を通じて阪神・淡路大震災を伝える意義」

第2部 パネルディスカッション

パネラー：三好氏、名倉氏、本校教員・雨宮、生徒3名(2年生)、司会進行：安永
テーマ「震災報道を通じて、私たちが学ぶことは何か」

◎第1部の講演を聴いて、「震災報道を通じて、伝える意義」について、大事なことや心に残ったこと、気になったことを書きましょう。

被災者の小毎やしあや、次へも言ひと
伝えるために大事なこと。
遺族の悲しみを知る。

◎第2部のパネルディスカッションを聴いて、「震災報道を通じて、私たちが学ぶことは何か」について、大事なことや心に残ったこと、気になったことを書きましょう。

私たちは震災を通じて折れた人や
助け合った友人。
遺族や被災者がどのくらい
学んだ。

◎最後に、本日の「防災学習」の感想を書きましょう。

防災学習で生名倉さんと三好さんのお話を
聴いたのもまたですね。名倉さんは遺族の方々は
いつも元気な方だと見ます。

兵庫教育大学附属中学校『防災学習』

3年

番名前

◎日時 令和3年1月18日(月) 5限・6限

○内容：第1部 神戸新聞社記者(三好 正文 氏・名倉あかり 氏)による講演

「震災報道を通じて阪神・淡路大震災を伝える意義」

第2部 パネルディスカッション

パネラー：三好氏、名倉氏、本校教員・雨宮、生徒3名(2年生)、司会進行：安永

テーマ「震災報道を通じて、私たちが学ぶことは何か」

◎第1部の講演を聴いて、「震災報道を通じて、伝える意義」について、大事なことや心に残ったこと、気になったことを書きましょう。

26年たった今でも、被災者の方の中にも心がいえていない方もいるとおもし、でも記者の方を震災のことを伝えたいとか、伝えないといけないという、かとうがあるんだろうなあとおもったし、そのかとうを乗りこえて話してくださっているので、心に留めたいといつもいとおもった。

◎第2部のパネルディスカッションを聴いて、「震災報道を通じて、私たちが学ぶことは何か」について、大事なことや心に残ったこと、気になったことを書きましょう。

報道されていることは、実際遺族の方が話されたことでそういうことは、これからとても貴重になっていくとおもうので、どうゆう気持ちで話されているのかということを汲み取ることが大切だとおもった。

自分は、大きな災害を経験していないので、特にこのよう大きな災害に対する知見はないけど、三好さんをおしゃっていたように、大きな災害には、学ぶべきことが多くあり、それをしっかり吸収することが大切だとおもった。

◎最後に、本日の「防災学習」の感想を書きましょう。

阪神淡路大震災が今、ひいてみて経験していよい自分で被害のすぐまじやが写真が5見てとれて、大変だった、という言葉が付けられぬいほど大変だったし今までそういう気持ちでいる人もいるのだろうと思った。阪神・淡路大震災の被害を再認識できたと共に、「防災学習」であるということを意識して、数々の震災から何を学ぶのかということを意識しないといけないとおもった。

兵庫教育大学附属中学校『防災学習』

3年 番名前

◎日時 令和3年1月18日(月) 5限・6限

○内容：第1部 神戸新聞社記者(三好 正文 氏・名倉あかり 氏)による講演
「震災報道を通じて阪神・淡路大震災を伝える意義」

第2部 パネルディスカッション

パネラー：三好氏、名倉氏、本校教員・雨宮、生徒3名(2年生)、司会進行：安永
テーマ「震災報道を通じて、私たちが学ぶことは何か」

◎第1部の講演を聴いて、「震災報道を通じて、伝える意義」について、大事なことや心に残ったこと、気になったことを書きましょう。

震災についてこのインタビューでは相手の心情を読みながら、失礼のないよう話を聞かなければならぬのがやがた。相手の気持ち、亡なたの方の気持ちを読むことの大切さを知ることができた。

これからは震災を知らない人から知らない人に伝えるようにならなくてはいけない。

6434人の中の一人一人に人生がある、たことを忘れないことが大事なのかながた。最後の「備えにブルはない」というフレーズが印象に残った。

◎第2部のパネルディスカッションを聴いて、「震災報道を通じて、私たちが学ぶことは何か」について、大事なことや心に残ったこと、気になったことを書きましょう。

記者が言っていた「あの日を忘れない」の「あの日」は1月17日のことではなく震災が起こる前に亡なる前の人といふにいた日のことをさす。この話が印象に残った。

◎最後に、本日の「防災学習」の感想を書きましょう。

今までには地震の恐しさを学び、それにどう備えるかということは“おり”学んできただけど、今回には被災者のお話にどう向きあうか、どのようなことを意識して取材するかなどいふものは違う視点で防災学習を受けることができてよかった。

兵庫教育大学附属中学校『防災学習』

3年

番名前

◎日時 令和3年1月18日(月) 5限・6限

○内容：第1部 神戸新聞社記者(三好 正文 氏・名倉あかり 氏)による講演
「震災報道を通じて阪神・淡路大震災を伝える意義」

第2部 パネルディスカッション

パネラー：三好氏、名倉氏、本校教員・雨宮、生徒3名(2年生)、司会進行：安永
テーマ「震災報道を通じて、私たちが学ぶことは何か」

◎第1部の講演を聴いて、「震災報道を通じて、伝える意義」について、大事なことや心に残ったこと、気になったことを書きましょう。

近い人に取材をするべきだ

遺族に声をかけるのが ← 難い問題

矢張りがぶりをしない

他者には理解できない

震災を知り少い世代が知らない世代を語りつくす

大切な人、1人1人に人生がある 約へんとしない

◎第2部のパネルディスカッションを聴いて、「震災報道を通じて、私たちが学ぶことは何か」について、大事なことや心に残ったこと、気になったことを書きましょう。

家族や友達と話し日ごろより準備していくことが大切

記憶を引きついでいることが大切

自分のこととして想像

命を守っていく

油断しない → 実際には想定以上のものになるかもしれない

◎最後に、本日の「防災学習」の感想を書きましょう。

震災など全ての災害において今の技術で信じて油断するのでなく常に生活の中で地震と向きあっていくことが減災や防災につながると思います。

兵庫教育大学附属中学校『防災学習』

3年

番名前

◎日時 令和3年1月18日(月) 5限・6限

◎内容：第1部 神戸新聞社記者(三好 正文 氏・名倉あかり 氏)による講演
「震災報道を通じて阪神・淡路大震災を伝える意義」

第2部 パネルディスカッション

パネラー：三好氏、名倉氏、本校教員・雨宮、生徒3名(2年生)、司会進行：安永
テーマ「震災報道を通じて、私たちが学ぶことは何か」

◎第1部の講演を聴いて、「震災報道を通じて、伝える意義」について、大事なことや心に残ったこと、気になったことを書きましょう。

知ったかぶりは、してはいけない、自分の知らないことを被災者に聞き
事実を伝える事。「聞かない、ことは亡くなった人に失禮である。自ら動いて取材す
ることが大切である。

こんでんこ＝津波

◎第2部のパネルディスカッションを聴いて、「震災報道を通じて、私たちが学ぶことは何か」について、大事なことや心に残ったこと、気になったことを書きましょう。

これまでの震災について語り継いでいくのは私たちの役目である。

一つの地震について語る、これまでの多くの生まれてきる人たちに、
この出来事を伝えたいことには必要だ。自分の命も大切である。
でもみなたって同じなので、一人一人が助け合うこと。「備え、

◎最後に、本日の「防災学習」の感想を書きましょう。

新聞などを通じて、地震を経験していない人に、こういうことがあ
ったんだよと伝えることができれば、多くの人たちの災害に対する意識
は絶対に変わると思うから、今までも災害について情報を人々に伝
めていくことが必要であると思いました。

「とくに亡くなった人たちの思いを引き継ぐ」忘れてはいけないとと思いました。

兵庫教育大学附属中学校『防災学習』

3年

上番名前

◎日時 令和3年1月18日(月) 5限・6限

○内容：第1部 神戸新聞社記者(三好 正文 氏・名倉あかり 氏)による講演
「震災報道を通じて阪神・淡路大震災を伝える意義」

第2部 パネルディスカッション

パネラー：三好氏、名倉氏、本校教員・雨宮、生徒3名(2年生)、司会進行：安永

テーマ「震災報道を通じて、私たちが学ぶことは何か」

◎第1部の講演を聴いて、「震災報道を通じて、伝える意義」について、大事なことや心に残ったこと、気になったことを書きましょう。

- ・聞く相手を考える(遺族に取材をするのならば死者の一一番近い人に聞く)
- ・聞く前に震災を経験していないことを伝える。死者数は必ず1ケタで表す。
- ・一日一日を大切にして知らないことを知りうとする。
- ・どんな時もカメラとマイクを向け続ける。
- ・安心報道を重視する→読者を励ます記事を書く
- ・災害が起こう度に立派を深めろ→継続して伝える
→変化する「災害像」

◎第2部のパネルディスカッションを聴いて、「震災報道を通じて、私たちが学ぶことは何か」について、大事なことや心に残ったこと、気になったことを書きましょう。

・災害は繰り返す「備え」にゴールはない。・1月17日を忘れない

↓
常日頃からの意識を大切に! →少しでも興味を持つ調べ方

・一つ一つの災害から学ぶ。・防災、減災

・まずは自分の命→誰かの命

◎最後に、本日の「防災学習」の感想を書きましょう。

自分はまだ大きな地震を経験したことがないけれど、震災にしっかりと向き合って考えることが出来ました。

自分の家では、しっかりと災害への備えに取り組んでいますが、もっと出来るところがないかを考え、自分の身は自分で守ろうように努めたいです。

兵庫教育大学附属中学校『防災学習』

3年

登名前

◎日時 令和3年1月18日(月) 5限・6限

○内容：第1部 神戸新聞社記者(三好 正文 氏・名倉あかり 氏)による講演
「震災報道を通じて阪神・淡路大震災を伝える意義」

第2部 パネルディスカッション

パネラー：三好氏、名倉氏、本校教員・雨宮、生徒3名(2年生)、司会進行：安永

テーマ「震災報道を通じて、私たちが学ぶことは何か」

◎第1部の講演を聴いて、「震災報道を通じて、伝える意義」について、大事なことや心に残ったこと、気になったことを書きましょう。

北畠ひでひろの人が犠牲になってしまったことを振り返り立ち直るために一人でも多くの人に伝え、震災の備えをしてほしい人は無事なら、がんばって震災に備えていたいと思ふよ。

◎第2部のパネルディスカッションを聴いて、「震災報道を通じて、私たちが学ぶことは何か」について、大事なことや心に残ったこと、気になったことを書きましょう。

20件あり、震災の場合の被害が多かった。答の疑問と聞かれていたりながら、向かい合はれては他の質問されていました。

◎最後に、本日の「防災学習」の感想を書きましょう。

今日の震災へ早い意識で、内省する所が多く思つた。
新聞など、震災についての報道を多く見てきたので、それによると、本日のことを伝えたりして、どう責任であるか、後悔したこと、未満の点などを改めて踏まえて改めて被災してしまったところ。
この震災は伍伍がある事実でございました。

兵庫教育大学附属中学校『防災学習』

3年

番名前

◎日時 令和3年1月18日(月) 5限・6限

○内容：第1部 神戸新聞社記者(三好 正文 氏・名倉あかり 氏)による講演
「震災報道を通じて阪神・淡路大震災を伝える意義」

第2部 パネルディスカッション

パネラー：三好氏、名倉氏、本校教員・雨宮、生徒3名(2年生)、司会進行：安永

テーマ「震災報道を通じて、私たちが学ぶことは何か」

◎第1部の講演を聴いて、「震災報道を通じて、伝える意義」について、大事なことや心に残ったこと、気になったことを書きましょう。

涙を流して悲しんでいる人に取材をするべきなのかは難しいことだと思った。
報道側からすれば、この震災の悲けを後世に伝えていくべきだし、
そのためには被災者から話を聞くのが一番事實に近いことだと思つた。
でも、被災者からしたらそんな取材を受けめうつうな心情ではないと
思うし、泣いたくなかったりがあるかもしれない。ただ、落書きたら
後世に伝えていくべきだと思う。(落書きのに時間はあってか)

◎第2部のパネルディスカッションを聴いて、「震災報道を通じて、私たちが学ぶことは何か」について、大事なことや心に残ったこと、気になったことを書きましょう。

震災の記憶は記録していくべきだと思った。

人々の記憶は無くなったり、伝えめんがせくなったりして
後世に伝えようのは一種だめだと思った。

文字は残るし、人々の手に一番外しつづけられた
恩うから被災者の方はつらからもしないけれど、どうかして
後世に自分の記憶を伝えていくべき

◎最後に、本日の「防災学習」の感想を書きましょう。

地震のおこしさはあまり分からぬ。

正直、映像や写真だけじゃ100%は伝わらない。
だからこそ、実際に経験したことがあれば
後世に伝えていくべきだと思った。

兵庫教育大学附属中学校『防災学習』

3年 番名前

◎日時 令和3年1月18日(月) 5限・6限

○内容：第1部 神戸新聞社記者(三好 正文 氏・名倉あかり 氏)による講演
「震災報道を通じて阪神・淡路大震災を伝える意義」

第2部 パネルディスカッション

パネラー：三好氏、名倉氏、本校教員・雨宮、生徒3名(2年生)、司会進行：安永
テーマ「震災報道を通じて、私たちが学ぶことは何か」

◎第1部の講演を聴いて、「震災報道を通じて、伝える意義」について、大事なことや心に残ったこと、気になったことを書きましょう。

涙を流していた両親見に声をかけずおはにあたる人へ取材を行ったのは失礼なこと。達族に寄りつい、自分がその人に付いた目線でどう行動するかを考えることが良い取材をするためには必要。どうして伝えるのかと思うのではなく、一つ一つ話す機会を増やすことを思う。

◎第2部のパネルディスカッションを聴いて、「震災報道を通じて、私たちが学ぶことは何か」について、大事なことや心に残ったこと、気になったことを書きましょう。

当時の状況。

そしてこの震災により今後の防災法やいつおこるかわからない中緊張感を学ぶことができる。
達族や
早くほつた人の気持ちを知ること。

◎最後に、本日の「防災学習」の感想を書きましょう。

阪神・淡路大震災を体験した人としていながらでは、
具体性がないと違うと思った。

2年生の子の意見で実際に母が撮った写真をもってきた、
関東の震災を体験した同級生の話している様子を見ながら怖かったらうなと思った。学ばされた(地震について)。

兵庫教育大学附属中学校『防災学習』

3年 前名番

◎日 時 令和3年1月18日(月) 5限・6限

○内容：第1部 神戸新聞社記者（三好 正文 氏・名倉あかり 氏）による講演
「震災報道を通じて阪神・淡路大震災を伝える意義」

第2部 パネルディスカッション

パネラー：三好氏、名倉氏、本校教員・雨宮、生徒3名（2年生）、司会進行：安永

テーマ「震災報道を通じて、私たちが学ぶことは何か」

◎第1部の講演を聴いて、「震災報道を通じて、伝える意義」について、大事なことや心に残ったこと、気になったことを書きましょう。

目の前で涙を落す。3人で取材する。3月12日。T<1d。T=112.7±0.440

「私の震災を知りません。あなたの声がおしゃれで丁寧で、声が“けて”など
私が“”の震災をどう伝えたいか。

安全安心の情報三。

自分の命をどう守るのか。

◎第2部のパネルディスカッションを聴いて、「震災報道を通じて、私たちが学ぶことは何か」について、大事なことや心に残ったこと、気になったことを書きましょう。

・他人の人の命も守る

自分の身の自分を守る。

地震が起った時のそろそろです。

◎最後に、本日の「防災学習」の感想を書きましょう。

地震云うモノの12本当12=47(111)と卓識(47)=

地震は自然災害の一つでありますからです。今お = 2E
おがしゃくじ = 2E がしゃくじ = 2E がしゃくじ = 2E
おがしゃくじ = 2E がしゃくじ = 2E がしゃくじ = 2E

の命は自分?" 甲、乙、丙、丁の四人を尋ねたところ、甲と丙が「是」、乙と丁が「否」である。

かと云ふ大地震の1877年12月2日は人生を30分の人生と

- 84 - 日本の電力政策と電力供給の現状

兵庫教育大学附属中学校『防災学習』

3年

番名前

◎日時 令和3年1月18日(月) 5限・6限

○内容：第1部 神戸新聞社記者(三好 正文 氏・名倉あかり 氏)による講演

「震災報道を通じて阪神・淡路大震災を伝える意義」

第2部 パネルディスカッション

パネラー：三好氏、名倉氏、本校教員・雨宮、生徒3名(2年生)、司会進行：安永

テーマ「震災報道を通じて、私たちが学ぶことは何か」

◎第1部の講演を聴いて、「震災報道を通じて、伝える意義」について、大事なことや心に残ったこと、気になったことを書きましょう。

・“知りたくないことを伝える”ために、言いたくないことも言って欲しい。

・知らない人が伝える時代になる。→今のうちに知っておく

◎第2部のパネルディスカッションを聴いて、「震災報道を通じて、私たちが学ぶことは何か」について、大事なことや心に残ったこと、気になったことを書きましょう。

・「話してくれない人は、できるだけ、「聞きたいい」という姿勢で、少しずつ言葉を引き出していく。

・モノメントを見るので、その背景まで見れるようにする。

◎最後に、本日の「防災学習」の感想を書きましょう。

防災をする上で、減災を頑張ることが大切だと思っていました。でも、それで“けて”ではなく、本当にあってることを知ることで、より、防災への理解ができる。また、それを知らせることも、私たちの役目にあるということが“わかりました。”

兵庫教育大学附属中学校『防災学習』

3年 番名前

◎日時 令和3年1月18日(月) 5限・6限

○内容：第1部 神戸新聞社記者(三好 正文 氏・名倉あかり 氏)による講演
「震災報道を通じて阪神・淡路大震災を伝える意義」

第2部 パネルディスカッション

パネラー：三好氏、名倉氏、本校教員・雨宮、生徒3名(2年生)、司会進行：安永
テーマ「震災報道を通じて、私たちが学ぶことは何か」

◎第1部の講演を聴いて、「震災報道を通じて、伝える意義」について、大事なことや心に残ったこと、気になったことを書きましょう。

・大震災を知らない世代からまた新しい世代へ
・知ったばかりをしない

◎第2部のパネルディスカッションを聴いて、「震災報道を通じて、私たちが学ぶことは何か」について、大事なことや心に残ったこと、気になったことを書きましょう。

・記憶を記録するのが大切。
・当時いた人たちの記憶としていろんなメディアからの記録をつなげていくことが大切。
・命を守っていく
・油断しない

◎最後に、本日の「防災学習」の感想を書きましょう。

・この防災学習を通して、地震の怖さをいろいろもわかったし、當時でこんなことがあったのかすごくよくわかったので良かったなと思います。

兵庫教育大学附属中学校『防災学習』

3年

番名前

◎日時 令和3年1月18日(月) 5限・6限

○内容：第1部 神戸新聞社記者(三好 正文 氏・名倉あかり 氏)による講演
「震災報道を通じて阪神・淡路大震災を伝える意義」

第2部 パネルディスカッション

パネラー：三好氏、名倉氏、本校教員・雨宮、生徒3名(2年生)、司会進行：安永
テーマ「震災報道を通じて、私たちが学ぶことは何か」

◎第1部の講演を聴いて、「震災報道を通じて、伝える意義」について、大事なことや心に残ったこと、気になったことを書きましょう。

- ・教えて子から一日一日を大切に生きなさいといけないといふことを学んだ
- ・何年かたってからようやく気持ちの整理ができる人が多く、今になって取材をうけたり、当時をふり返すことができるようになつた
- ・震災を経験していないのに取材をするのが難しい
- ・取材をするときには必ず「震災」というものを知らない、とハウとしたを伝えて、教えていただきたい、話を聞かせていただきたいというふうに先に伝えよ
- ・記者としてしっかりと伝えていかなければ受け継ぐことができない

◎第2部のパネルディスカッションを聴いて、「震災報道を通じて、私たちが学ぶことは何か」について、大事なことや心に残ったこと、気になったことを書きましょう。

- ・記憶を記録する方が大切
- ・自分自身ではなく相手の方から「STOP」をかけられることがあるけれどそこで引きさがらず、最後まで話をきかなければいけない
- ・防災に関してもう少し关心をもって避難訓練などの防災訓練に取り組んでいかなければいけないと思った
- ・震災というものはいつくるのかや「分からぬ」と思って、あまりいつもは意識していかなければいけないといつくるのかや「分からぬ」からこそ、これから準備し、災害に向まわなければならないといけないと思いました。

◎最後に、本日の「防災学習」の感想を書きましょう。

- ・今日の「防災学習」でたくさん地震についてやこの悲しい震災を受け継いでいくことが大切にならということアドバイスをもらいました。
- ・被害者にい、せくなってしまった人の遺族の方に取材をするのは失礼なことではなく次の世代に受け継ぐため大切なことだから記者としても、一人の人としても伝えていかなければいけないと思った。
- ・また今はまだ全然、災害があきたときにすぐに対応できるようだ準備や家族とのコミュニケーションをあまりとれていないので、もう少しこそから意識していました。

兵庫教育大学附属中学校『防災学習』

3年 番名前

◎日時 令和3年1月18日(月) 5限・6限

○内容：第1部 神戸新聞社記者(三好 正文 氏・名倉あかり 氏)による講演

「震災報道を通じて阪神・淡路大震災を伝える意義」

第2部 パネルディスカッション

パネラー：三好氏、名倉氏、本校教員・雨宮、生徒3名(2年生)、司会進行：安永

テーマ「震災報道を通じて、私たちが学ぶことは何か」

◎第1部の講演を聴いて、「震災報道を通じて、伝える意義」について、大事なことや心に残ったこと、気になったことを書きましょう。

- ・取材の時「両親に話を聞かないとしくたゞ、下人に失礼だ」という考えに共感した。
- ・取材の心得
 - ・「私は震災を知らない」という。
 - ・「私がふりをしてはいけない→経験していないから感情を完璧に理解出来ない。
- ・高齢化によって震災を知らない人だけの時代がせまっている

◎第2部のパネルディスカッションを聴いて、「震災報道を通じて、私たちが学ぶことは何か」について、大事なことや心に残ったこと、気になったことを書きましょう。

- ・被害者の方は記者や他の人に話すのは辛いけど「しくたゞ人のことを知らうのはうれしい(来年の1月17日に思い出してもらえる)
- ・家族と話し合っておくことが最も重要な準備
- ・事実を知るだけでなく感情まで理解しようとすることが大切
- ・1つ1つの災害から学びを得て次同じあやまちを避けようとする。

◎最後に、本日の「防災学習」の感想を書きましょう。

・災害について伝えることは何につづかるのかもっと知りたかった。
・事実を知るだけでなくその現場を自分が体験して時どんだけ気持ちになれるのか考えて理解できるように
はげむことが震災でしくたゞ、下人たちのために出来る
最大限のことだと思った。
今回、その気持ちを考えながら記者(名倉)の話が
開けたので良かった。

兵庫教育大学附属中学校『防災学習』

3年 番名前

◎日時 令和3年1月18日(月) 5限・6限

○内容：第1部 神戸新聞社記者(三好 正文 氏・名倉あかり 氏)による講演
「震災報道を通じて阪神・淡路大震災を伝える意義」

第2部 パネルディスカッション

パネラー：三好氏、名倉氏、本校教員・雨宮、生徒3名(2年生)、司会進行：安永
テーマ「震災報道を通じて、私たちが学ぶことは何か」

◎第1部の講演を聴いて、「震災報道を通じて、伝える意義」について、大事なことや心に残ったこと、気になったことを書きましょう。

今は、もう語りやからでは、経験を教えていたたく機会がどんどん少なくなっているので、語ってもらった方から伝えていかなければいけない。
遺族の方たちに実際に教えていただけて、距離が近いので、
記者として発信していかなければならぬ。

10年20年たって語れるようになった人もいる。

◎第2部のパネルディスカッションを聴いて、「震災報道を通じて、私たちが学ぶことは何か」について、大事なことや心に残ったこと、気になったことを書きましょう。

かざられた卑から見るだけではなく、何を感じるのかが大事。

1.17だけではなく、今先も苦しみながらも生きている向日町も大切。

1つ1つの災害から学ぶことが大切。避難するかしないか
ハザードマップだけをあてにしそぎないようにする。

防災は、災害が起きる前にすることが大切。

◎最後に、本日の「防災学習」の感想を書きましょう。

実際に記者の方のお話を聞いて「伝える」、という仕事だから、悲しいことでも語りつくすために取材交渉をしなければならぬけれど、交渉さえもできにくい遺族らの思いをありのまま伝えるのは、すごい難しいと思った。

記録を記録するのは、未来のために必要不可欠だと思った。

兵庫教育大学附属中学校『防災学習』

3年

番名前

◎日時 令和3年1月18日(月) 5限・6限

○内容：第1部 神戸新聞社記者(三好 正文 氏・名倉あかり 氏)による講演
「震災報道を通じて阪神・淡路大震災を伝える意義」

第2部 パネルディスカッション

パネラー：三好氏、名倉氏、本校教員・雨宮、生徒3名(2年生)、司会進行：安永
テーマ「震災報道を通じて、私たちが学ぶことは何か」

◎第1部の講演を聴いて、「震災報道を通じて、伝える意義」について、大事なことや心に残ったこと、気になったことを書きましょう。

次の世代に語り継ぎたいがためにければならない。(体験/伝へ)

体験していかなければどうやっていくのか、一日一日大切にすることは、どうつけていくかを考えてなければならない。

◎第2部のパネルディスカッションを聴いて、「震災報道を通じて、私たちが学ぶことは何か」について、大事なことや心に残ったこと、気になったことを書きましょう。

震災のことを竹内氏が語ってくれたところの話は、どちらで、二切れ跡とも最後まで聞こえた事が下で「どちらの事が」分かる。

防災、減災のために「家族」といって話し合っておく。

一人一人の地震から守る、自分の身を守る。

◎最後に、本日の「防災学習」の感想を書きましょう。

震災を体験して私たちに、体験した方がいい伝えられた言葉や、当時のことを、どう次の世代に伝えたいか、つけていくのかをもう教えてなければいけないと思った。また、その伝え方から、学んで次に Carla、身を守り!

兵庫教育大学附属中学校『防災学習』

3年 1番 名前

◎日時 令和3年1月18日(月) 5限・6限

○内容：第1部 神戸新聞社記者(三好 正文 氏・名倉あかり 氏)による講演
「震災報道を通じて阪神・淡路大震災を伝える意義」

第2部 パネルディスカッション

パネラー：三好氏、名倉氏、本校教員・雨宮、生徒3名(2年生)、司会進行：安永
テーマ「震災報道を通じて、私たちが学ぶことは何か」

◎第1部の講演を聴いて、「震災報道を通じて、伝える意義」について、大事なことや心に残ったこと、気になったことを書きましょう。

親や子を失う悲しみは、いつまでたっても、消えないような傷になります。
だからこそ、正しく知り、広めることが、重要なことがあります。本日は、大事
でありますから、た人たちのために、これから遠近3つあらう大災害の被害者の被災者の方達
は、救ひに来ぬのかなと思っています。

◎第2部のパネルディスカッションを聴いて、「震災報道を通じて、私たちが学ぶことは何か」について、大事なことや心に残ったこと、気になったことを書きましょう。

阪神・淡路大震災のような大地震をさせないために、防災をするのです。
でも、起きてしまうものは起きるのか絶対に避けられないから、その時にできる
行動が大切であると
自分で自分を守り、動くこと

◎最後に、本日の「防災学習」の感想を書きましょう。

こういう阪神・淡路大震災の映像は何度か見たことがありますが、私はまだ何度見ても
私は映像としてとても怖く足がすくなくなりました。
もし本当に起らなければ私は、何も起こらないと死んでしまうと思います。
この震災の被害者は自分が死んだ相手がいた、てしまうのそういう感覚がよく感じました。
もう二度とこういう人が増えないように自分を守ることを学びたいと思います。

兵庫教育大学附属中学校『防災学習』

3年

番名

◎日時 令和3年1月18日(月) 5限・6限

○内容：第1部 神戸新聞社記者(三好 正文 氏・名倉あかり 氏)による講演
「震災報道を通じて阪神・淡路大震災を伝える意義」

第2部 パネルディスカッション

パネラー：三好氏、名倉氏、本校教員・雨宮、生徒3名(2年生)、司会進行：安永
テーマ「震災報道を通じて、私たちが学ぶことは何か」

◎第1部の講演を聴いて、「震災報道を通じて、伝える意義」について、大事なことや心に残ったこと、気になったことを書きましょう。

なくなく、た人の親ではなく、おはに話を聞いた。親は泣いていたから、まだが、ていたとは思わない。

◎第2部のパネルディスカッションを聴いて、「震災報道を通じて、私たちが学ぶことは何か」について、大事なことや心に残ったこと、気になったことを書きましょう。

写真など、母親の行動は新聞記者の仕事の内の1つ、行動にうつせるのはすごい。

あの日、その人が死んだ日。1月17日ではなく、その日まで生きていた人の人生が止まらえた日。=人によくかかるのでは

◎最後に、本日の「防災学習」の感想を書きましょう。

あの日と言ったら、災害が発生した。1月17日のまことに、被災者の人たちが、発生するまでに生きていた人の人生が止まってしまった日であり、とくに下日で、1月17日というのを、その日が、1月17日にならうなのだと知った。だから人によく、1月18日かもしれないし、1月19日かもしれない。そして阪神・淡路大震災以外の場で、あの日というものに出会うのがもじ木ないところが、将来が何もない1日が、その後あの日と呼ばれられるような日にならうかもじ木なくて、それを自分の友達や親に言わせたくないか、と感じた。また、自分も言いたくないので、しがり備えろことが大切なのかがよく分かって

兵庫教育大学附属中学校『防災学習』

3年 1番 名前

◎日時 令和3年1月18日(月) 5限・6限

○内容 第1部 神戸新聞社記者(三好 正文 氏・名倉あかり 氏)による講演
「震災報道を通じて阪神・淡路大震災を伝える意義」

第2部 パネルディスカッション

パネラー:三好氏、名倉氏、本校教員・雨宮、生徒3名(2年生)、司会進行:安永

テーマ「震災報道を通じて、私たちが学ぶことは何か」

◎第1部の講演を聴いて、「震災報道を通じて、伝える意義」について、大事なことや心に残ったこと、気になったことを書きましょう。

(Xモ) 1日1日大切に生きなければいけないとこうことを次の世代に伝えなければならぬ。

新聞は災害時において大切なライフラインの一つである。

震災当時、ビルが倒れたり大きな被害が生まれた。

被災者の方に質問する際に自分が言葉で考えを発言しないために、被災者の方の気持ちになって発言することが大切。

◎第2部のパネルディスカッションを聴いて、「震災報道を通じて、私たちが学ぶことは何か」について、大事なことや心に残ったこと、気になったことを書きましょう。

・減災などについて、自分がどのように行動していくのがこれまでの未来を変える一歩だと思った。

◎最後に、本日の「防災学習」の感想を書きましょう。

26年前の1月17日。絶対に忘れない出来事。次の世代へ震災のさくらさを伝えていくことを語り手と呼ばれました。震災で犠牲になられた方々の苦しみや悲しみを知る事がありました。

兵庫教育大学附属中学校『防災学習』

3年

番名前

◎日時 令和3年1月18日(月) 5限・6限

○内容：第1部 神戸新聞社記者(三好 正文 氏・名倉あかり 氏)による講演
「震災報道を通じて阪神・淡路大震災を伝える意義」

第2部 パネルディスカッション

パネラー：三好氏、名倉氏、本校教員・雨宮、生徒3名(2年生)、司会進行：安永
テーマ「震災報道を通じて、私たちが学ぶことは何か」

◎第1部の講演を聴いて、「震災報道を通じて、伝える意義」について、大事なことや心に残ったこと、気になったことを書きましょう。

○語ってくれる人の話を無駄にしないように、語ってくれた人の気持ちを考えて質問や、内容を書くようにしている。いやさいすることができなかつたそれは〇かX?

○普段の日常が変わった。爆発の音。コロナの中でも…

○新聞社は情報提供と読者はけげます。納はつけない
一人一人の人生が終ったことを指す

○10年いた話せん人いるかも知れない→いやさい
責任がある

○碑から何を思うのか→以前を見るだけではなく、その人はどのような人生など
を送ってきたのだろーと考える(あなたのことを忘れず)

○一つ一つの災害から学ぶ。→1サードラップは過去の物から作られて物
(小さな災害) 実際はそれを越えるよう考えをする必要がある
あり

職業ランキンガから

自らの命を守る→他人を助ける

◎最後に、本日の「防災学習」の感想を書きましょう。

○当日の事をあまり語りたくない中で語ってくれた話は、今後の対策に
するようにすることや地震を知らない世代の人たちに伝えれるように
するために、新聞社はあると思う。地震のきじで一面を書かれている
新聞より、政治の事や小さな事件などが書かれている方がとても
幸せだ。質問を相手が傷つかないよう工夫している所から
しっかりと地震を知らない世代でも語りつかれていたなと思った。

○グラフなどにけいさいするときに「納」を使っていた所から、一人一人
の尊い命がいつ失ってしまってしまうところから「納」を付けると一人一人が
わかる。一人一人の人生が終ったことを指す責任がある。

兵庫教育大学附属中学校『防災学習』

3年 番名前

◎日時 令和3年1月18日(月) 5限・6限

○内容：第1部 神戸新聞社記者(三好 正文 氏・名倉あかり 氏)による講演
「震災報道を通じて阪神・淡路大震災を伝える意義」

第2部 パネルディスカッション

パネラー：三好氏、名倉氏、本校教員・雨宮、生徒3名(2年生)、司会進行：安永
テーマ「震災報道を通じて、私たちが学ぶことは何か」

◎第1部の講演を聴いて、「震災報道を通じて、伝える意義」について、大事なことや心に残ったこと、気になったことを書きましょう。

1人1人の意見を大切にすること。
「もしも起きた時のことをしっかりと考える。」

1つ向かふらうのがうまいこと。

聞きたることはきく。

先に謝ってみること。(謝ることの大切さ)

本当に1つ向かう起きこころがうまいこと。
それでも起きた時はどうするか=おとて変わること。
読めないこと。

◎第2部のパネルディスカッションを聴いて、「震災報道を通じて、私たちが学ぶことは何か」について、大事なことや心に残ったこと、気になったことを書きましょう。

表情が忘れられまい。

その時の写真を見た時の感情(記憶は残る)

体験をしないと本当の怖いほどほ分かる
汶川と写真などを見た時ほど當時のこと

を考えさせられた。

最後まで聞く。(真面目に聞く)

◎最後に、本日の「防災学習」の感想を書きましょう。

防災学習をして感じたのは、その当時のことを全然知らないし無関心もしたけど
今思ふけれど本当にこんな感情や怖さで自分の中に記憶が残ると思えたし、そして起
きた時はどうするか=おとて変わると思うけれど何がおとてしても読めないようになってしまった
と思いました。

震災などがもし起きてしまった時は、自分にできること=取り組んで周りの人たちと協力す
る、アリ読めないといふことの大切にしていかなければ思えました。そして日頃から意識を
大切にしているのです。

(裏)→

(大事なこと、大切なことなど)

「何がめでたく自分の身は守る。」

（行動する力）

☆譲

「他の目を惹かれ」→「他の目には、人間らしいことを
惹かれ」

『先のことと、今とを考える。』

★自分の命を守る!!

（自分の中でも考え方直して見る。）

「当事のことを体験してはじめて"何がめでたく自分の身を守る"おのもたら
せられたこの学習で学ぶことのできたことをたぬく」。もし起きてしまって時の大心
などともと深く考え直す大切さを知れた。

兵庫教育大学附属中学校『防災学習』

3年 番名前

◎日時 令和3年1月18日(月) 5限・6限

○内容：第1部 神戸新聞社記者(三好 正文 氏・名倉あかり 氏)による講演
「震災報道を通じて阪神・淡路大震災を伝える意義」

第2部 パネルディスカッション

パネラー：三好氏、名倉氏、本校教員・雨宮、生徒3名(2年生)、司会進行：安永

テーマ「震災報道を通じて、私たちが学ぶことは何か」

◎第1部の講演を聴いて、「震災報道を通じて、伝える意義」について、大事なことや心に残ったこと、気になったことを書きましょう。

二十九の学生ではこの地震で経験した人は多いです
だから今の間に経験者が教訓すればいいと
後に伝えたいと思います

◎第2部のパネルディスカッションを聴いて、「震災報道を通じて、私たちが学ぶことは何か」について、大事なことや心に残ったこと、気になったことを書きましょう。

毎日地震からの意識が大事
家族などと話しながらおこなう大事(緊急用いにします)
自分の命を守る
自助、共助、公助
備蓄は備えを重ねてもうりがり、でもよくあるのである

◎最後に、本日の「防災学習」の感想を書きましょう。

かめりせんこう 回りから攻めていたら最後に石壁が飛んでくる。震災に体力がないと危険に
パネルディスカッションでできたので、「毎日地震からの意識して準備しておく必要がある」と
うことも刻んで生活していくといふと思う。
私が自助、余力があれば公助を心がけていきたいと思う。

兵庫教育大学附属中学校『防災学習』

3年

番名前

◎日時 令和3年1月18日(月) 5限・6限

○内容：第1部 神戸新聞社記者(三好 正文 氏・名倉あかり 氏)による講演
「震災報道を通じて阪神・淡路大震災を伝える意義」

第2部 パネルディスカッション

パネラー：三好氏、名倉氏、本校教員・雨宮、生徒3名(2年生)、司会進行：安永
テーマ「震災報道を通じて、私たちが学ぶことは何か」

◎第1部の講演を聴いて、「震災報道を通じて、伝える意義」について、大事なことや心に残ったこと、気になったことを書きましょう。

伝え続ける

◎第2部のパネルディスカッションを聴いて、「震災報道を通じて、私たちが学ぶことは何か」について、大事なことや心に残ったこと、気になったことを書きましょう。

一つ一つの事から学ぶ

「自助 共助 公助」

◎最後に、本日の「防災学習」の感想を書きましょう。

いつ、どこで おこるか分からなければ、「防災学習」を通して、自分がしなければならない事を改めて考えさせられた時間でした。やはり一番は「自分の命は自分で守る」事だなと思った。私達のために思いだしたくもない過去を訪してくれている方の気持ちをしっかり受けとめて伝えていくべきだなと思った。ありがとうございました。

兵庫教育大学附属中学校『防災学習』

3年 番名

◎日時 令和3年1月18日(月) 5限・6限

○内容：第1部 神戸新聞社記者(三好 正文 氏・名倉あかり 氏)による講演
「震災報道を通じて阪神・淡路大震災を伝える意義」

第2部 パネルディスカッション

パネラー：三好氏、名倉氏、本校教員・雨宮、生徒3名(2年生)、司会進行：安永

テーマ「震災報道を通じて、私たちが学ぶことは何か」

◎第1部の講演を聴いて、「震災報道を通じて、伝える意義」について、大事なことや心に残ったこと、気になったことを書きましょう。

あたりまえの日常が何だった。

失なれた取材で東北へ、取材はできるのか

私は震災を知らないといふことを伝え取材を取る

震災を体験していない人も伝えよといふ

自分の命を通して見る

◎第2部のパネルディスカッションを聴いて、「震災報道を通じて、私たちが学ぶことは何か」について、大事なことや心に残ったこと、気になったことを書きましょう。

自分の身に起こって来た

写真や、記事を載せることは大事でも被災地の人たれや、食料を送りても他県にも知らぬつもいといけない。うそう

話かけただけですまないが、隣で泣きたくなるもいるが、これは最後までまだいま

防災の意識

1月17日まで生きていた人の日々を忘れない

震災を悲しみながら何を学ぶか ①自助、共助 自分達で考える

◎最後に、本日の「防災学習」の感想を書きましょう。

今日の防災学習は単に被災者の話を聞くだけでなく、たくさんの自分達が重力

被災者を出でてきたりと話を呼ぶ。これにつれて書いたことはあつた。

取材の途、中で、からなって涙を流す人もいるのにそれもまた深く感心して

いかなければならぬのは、こちらとしても心が痛むがこの体験を

伝えなければならぬのだな。と感じました。

でも、そのおかげで私は体験について学び、人とつなげた

学び、人を助けることができる方法を学びました。思いました。

兵庫教育大学附属中学校『防災学習』

3年

番名前

◎日時 令和3年1月18日(月) 5限・6限

○内容：第1部 神戸新聞社記者(三好 正文 氏・名倉あかり 氏)による講演
「震災報道を通じて阪神・淡路大震災を伝える意義」

第2部 パネルディスカッション

パネラー：三好氏、名倉氏、本校教員・雨宮、生徒3名(2年生)、司会進行：安永
テーマ「震災報道を通じて、私たちが学ぶことは何か」

◎第1部の講演を聴いて、「震災報道を通じて、伝える意義」について、大事なことや心に残ったこと、気になったことを書きましょう。

災害 地震、津波、コロナ

地震の怖さを知る

伝えよう

◎第2部のパネルディスカッションを聴いて、「震災報道を通じて、私たちが学ぶことは何か」について、大事なことや心に残ったこと、気になったことを書きましょう。

後世に伝えたいからなければならぬ

準備をします。

突然やってくる

◎最後に、本日の「防災学習」の感想を書きましょう。

「地震」はいろんな教科で学ぶことが出来るので
真剣に向き合ってます。

技術が進歩して被害者が1人でも少くなれば良いと思つ。

あの日を忘れないではなくて、「あの日まで」と忘れないことが大切だと知った

兵庫教育大学附属中学校『防災学習』

3年

名前

◎日時 令和3年1月18日(月) 5限・6限

○内容：第1部 神戸新聞社記者(三好 正文 氏・名倉あかり 氏)による講演
「震災報道を通じて阪神・淡路大震災を伝える意義」

第2部 パネルディスカッション

パネラー：三好氏、名倉氏、本校教員・雨宮、生徒3名(2年生)、司会進行：安永
テーマ「震災報道を通じて、私たちが学ぶことは何か」

◎第1部の講演を聴いて、「震災報道を通じて、伝える意義」について、大事なことや心に残ったこと、気になったことを書きましょう。

矢口ったかぶりをしない
や取木オの時など…

安心・安全の情報と届ける

◎第2部のパネルディスカッションを聴いて、「震災報道を通じて、私たちが学ぶことは何か」について、大事なことや心に残ったこと、気になったことを書きましょう。

「祈る」の文字をかいだ碑

「あの日を忘れない」
→あの日亡くなった人の人生

一つ一つの地震から学ぶ

自分で一つにかける
→周りの人を守る

◎最後に、本日の「防災学習」の感想を書きましょう。

木々達はいつも生きかわらぬ災害とともに生きていかなければなりません。防災を減災とする事は大切です。しかし、過去の災害を学び災者に学ぶ事はもと大切だと思いました。地震を知らない世代が後世に伝えないといけないと思いました。

兵庫教育大学附属中学校『防災学習』

年 番 名前

◎日時 令和3年1月18日(月) 5限・6限

○内容：第1部 神戸新聞社記者(三好 正文 氏・名倉あかり 氏)による講演

「震災報道を通じて阪神・淡路大震災を伝える意義」

第2部 パネルディスカッション

パネラー：三好氏、名倉氏、本校教員・雨宮、生徒3名(2年生)、司会進行：安永

テーマ「震災報道を通じて、私たちが学ぶことは何か」

◎第1部の講演を聴いて、「震災報道を通じて、伝える意義」について、大事なことや心に残ったこと、気になったことを書きましょう。

人の体験したことを伝えていく

◎第2部のパネルディスカッションを聴いて、「震災報道を通じて、私たちが学ぶことは何か」について、大事なことや心に残ったこと、気になったことを書きましょう。

避難訓練の違い

自分の身は自分で守る

徹底すること

意識

◎最後に、本日の「防災学習」の感想を書きましょう。

災害は、起るかわからないので、普段から訓練したり家族、周りの人と話す、防災グッズを準備しておくことが大切だと思った。

自分が体験してないことなので、話を聞いたり調べたりすることで、将来に震災のことを伝えたいと思う。

遺族の方の思いを聞いたりあることは、心が痛いときもあるけれど、聞かないと当時のことはわからなくなる。

兵庫教育大学附属中学校『防災学習』

三年

名前

◎日時 令和3年1月18日(月) 5限・6限

○内容：第1部 神戸新聞社記者(三好 正文 氏・名倉あかり 氏)による講演
「震災報道を通じて阪神・淡路大震災を伝える意義」

第2部 パネルディスカッション

パネラー：三好氏、名倉氏、本校教員・雨宮、生徒3名(2年生)、司会進行：安永
テーマ「震災報道を通じて、私たちが学ぶことは何か」

◎第1部の講演を聴いて、「震災報道を通じて、伝える意義」について、大事なことや心に残ったこと、気になったことを書きましょう。

このへん先の時代ではこのへん震災を体験した人はいづれあります
なので、今の中に経験して人からの教訓を教えてもらいたい
ことを一生伝えていく必要があるなと思った

◎第2部のパネルディスカッションを聴いて、「震災報道を通じて、私たちが学ぶことは何か」について、大事なことや心に残ったこと、気になったことを書きましょう。

◎最後に、本日の「防災学習」の感想を書きましょう。

大地震を経験したことがないので、もう地震について知らないにはならない

だからこういった学習はせりたいにひつようだったの

良い話を聞くことができた

名倉の伝えたいという想いがとてもうばらしいものだと思った
名倉さんはとても優しい人。

名倉さんのお話が僕にとって必要なものと感じた。

兵庫教育大学附属中学校『防災学習』

3年

番名前

◎日時 令和3年1月18日(月) 5限・6限

○内容：第1部 神戸新聞社記者(三好 正文 氏・名倉あかり 氏)による講演
「震災報道を通じて阪神・淡路大震災を伝える意義」

第2部 パネルディスカッション

パネラー：三好氏、名倉氏、本校教員・雨宮、生徒3名(2年生)、司会進行：安永
テーマ「震災報道を通じて、私たちが学ぶことは何か」

◎第1部の講演を聴いて、「震災報道を通じて、伝える意義」について、大事なことや心に残ったこと、気になったことを書きましょう。

・実際に聞いて初めていいで感じることがある。

・「私は震災を知りません」知ったからいいといい。 ↗ 苦い悔しい

↳ 震災を通して遺族が感じた悲しみは他者には理解できない。

・「知らない私たちがどう次の世帯につないでいくか」考えなければならぬ。

・新聞は読者にとって「安心安全」な情報を届ける。

・「備え」にコーレはない。

◎第2部のパネルディスカッションを聴いて、「震災報道を通じて、私たちが学ぶことは何か」について、大事なことや心に残ったこと、気になったことを書きましょう。

・意識をもっともつべき

(例) 週練

↳ 自分をどう守れるかを知るべき。 (レート、行動などを知る)

・あの日を忘れない

1月17日X

あの日まだ生きていた人、あの日亡くなってしまった人の

・1つ1つの震災から学ぶべき。

常に想像していかないといけない。

↳ 備えても、備えても死者を亡くせない。

いつ震災が起ころかからない。

◎最後に、本日の「防災学習」の感想を書きましょう。

・学んでも、学んでも震災は想像を越えてくると思います。
だからこそ、一人でも多くの人を守れるように、自分を自分自身で

・守れるようにしたいと思いまして。

・これから的人生で震災は経験すると思うのでそれにしっかり
備えていきます。

・まず自分自身が生きていかないと他の人達を守れない。

兵庫教育大学附属中学校『防災学習』

3年

番名前

◎日時 令和3年1月18日(月) 5限・6限

○内容：第1部 神戸新聞社記者(三好 正文 氏・名倉あかり 氏)による講演
「震災報道を通じて阪神・淡路大震災を伝える意義」

第2部 パネルディスカッション

パネラー：三好氏、名倉氏、本校教員・雨宮、生徒3名(2年生)、司会進行：安永
テーマ「震災報道を通じて、私たちが学ぶことは何か」

◎第1部の講演を聴いて、「震災報道を通じて、伝える意義」について、大事なことや心に残ったこと、気になったことを書きましょう。

- ・どのようにして話を聞くべきか、どれか正解か分からずかといふことが、心に残って難しかったと思った。
- ・地震が起きたときの状況の話が、リアルで心に残った。
- ・一人一人のことを想うことの大切。
このように思って伝える

◎第2部のパネルディスカッションを聴いて、「震災報道を通じて、私たちが学ぶことは何か」について、大事なことや心に残ったこと、気になったことを書きましょう。

- ・写真をのこすことも、伝える側としては大切なことだが、目の前で困っている人がいるときどうするのが良いのかは本当に難しい問題だと思った。
- ・意識が大切 "あの日を忘れない" あの日は、これまで生きてきた日々のことなど。
- ・災害が起したら、そこから学ぶことが大事

◎最後に、本日の「防災学習」の感想を書きましょう。

- ・震災を経験したことほどの、それでも、伝えようとしてくださる人からの話や写真などからの想像で大変な状況だとすることが考えられて。自分の行動に、今回、学んだことをつづけていた。
- ・自分のことは自分で守る。今、できることをしっかりする。ということが本当に大切だと思った。

兵庫教育大学附属中学校『防災学習』

3年

番名前

◎日時 令和3年1月18日(月) 5限・6限

○内容：第1部 神戸新聞社記者(三好 正文 氏・名倉あかり 氏)による講演
「震災報道を通じて阪神・淡路大震災を伝える意義」

第2部 パネルディスカッション

パネラー：三好氏、名倉氏、本校教員・雨宮、生徒3名(2年生)、司会進行：安永
テーマ「震災報道を通じて、私たちが学ぶことは何か」

◎第1部の講演を聴いて、「震災報道を通じて、伝える意義」について、大事なことや心に残ったこと、気になったことを書きましょう。

取材をする時には、「私は知りません」と言っている。

知ったばかりをしない。

安全安心の情報を伝えることが大切。

みんなに伝えるため大変な時でも写真をとらないでほしい。

◎第2部のパネルディスカッションを聴いて、「震災報道を通じて、私たちが学ぶことは何か」について、大事なことや心に残ったこと、気になったことを書きましょう。

授業から防災の意識を持つことが大切。

(全国的にも、防災の意識が低いと思います。

日頃から、防災対策をする。

100の災害から学ぶ。

想像することが大切。

◎最後に、本日の「防災学習」の感想を書きましょう。

これから今まで以上の防災に対する意識を高めていかないと思いました。

僕は、大きな地震を経験していないけれど、講演や写真、動画などを見たときに、阪神・淡路大震災はとても大きな地震でたくさんの方々が亡ったので、もう一度、このようなたくさんの死者をださないように、対策をしっかり家族と交流をすることが大切。

自分の命は自分で守る。

地震が起きたときも、パニックにならず、冷静に正しい行動をとることで、一人でも多くの人が助かると思います。

兵庫教育大学附属中学校『防災学習』

3年 1番 名前

◎日時 令和3年1月18日(月) 5限・6限

○内容：第1部 神戸新聞社記者(三好 正文 氏・名倉あかり 氏)による講演
「震災報道を通じて阪神・淡路大震災を伝える意義」

第2部 パネルディスカッション

パネラー：三好氏、名倉氏、本校教員・雨宮、生徒3名(2年生)、司会進行：安永
テーマ「震災報道を通じて、私たちが学ぶことは何か」

◎第1部の講演を聴いて、「震災報道を通じて、伝える意義」について、大事なことや心に残ったこと、気になったことを書きましょう。

・26年たつたら、亡くなる人が増えてきた。
→後の人達に伝えていく。
(知らない人から知らない人に)

◎第2部のパネルディスカッションを聴いて、「震災報道を通じて、私たちが学ぶことは何か」について、大事なことや心に残ったこと、気になったことを書きましょう。

・一つ一つの災害から学ぶことが大事。
・残してくれているものを見るだけではなく、何を感じとれるかが大事。
・備えが大事。→行動をとる。
・人命を守る。

◎最後に、本日の「防災学習」の感想を書きましょう。

地震も含め、災害はいつからかわからないので、日頃からの備えが大切だと思います。
阪神・淡路大震災を通して、残っているもの、残してくれたものから何かを感じとりたいと思ったし、自分が生きつき77番大きい地震でも、震度3で、その下も怖さを知り、震度7がきたら、たぶん動けないのではないかと思っているので、今のうちから、準備をしていきたいと思います。

兵庫教育大学附属中学校『防災学習』

3年 1番 名前

◎日時 令和3年1月18日(月) 5限・6限

○内容：第1部 神戸新聞社記者(三好 正文 氏・名倉あかり 氏)による講演
「震災報道を通じて阪神・淡路大震災を伝える意義」

第2部 パネルディスカッション

パネラー：三好氏、名倉氏、本校教員・雨宮、生徒3名(2年生)、司会進行：安永
テーマ「震災報道を通じて、私たちが学ぶことは何か」

◎第1部の講演を聴いて、「震災報道を通じて、伝える意義」について、大事なことや心に残ったこと、気になったことを書きましょう。

。災害については取材では、相手側が記者に対して「失礼だ」と思っている場合があるときいて、人の命を前にして、何とか感じたことを誰かに伝えるといふのは、容易ではないといふことばかりだ。

。被災者は情報を受け取る側から、発信する側へと変わっている。 → 災害の

。知らないことを知っているといふ嘘をつかない。

◎第2部のパネルディスカッションを聴いて、「震災報道を通じて、私たちが学ぶことは何か」について、大事なことや心に残ったこと、気になったことを書きましょう。どう全然違うんだか、そこまで、しゃべってたことにについて考えたことを書く

。震災にあたった場所でも全然避難訓練をしていない事実がある
→ 意識が全くできていない。

◎最後に、本日の「防災学習」の感想を書きましょう。

普段から聞けない、震災での経験などが聞けたり、災害の映像を見たりして貴重な意見が聞けて良かったです。

たしかに、私たちは、環境や状況が変わってもすぐに避難経路を確認したりしないので、もし災害に対する備えや意識を高めるべきだったよと思いました。普段から備えている人といはいい人はまだ差があると思うのでしっかり備えていいです。

兵庫教育大学附属中学校『防災学習』

3年

番名前

◎日時 令和3年1月18日(月) 5限・6限

○内容：第1部 神戸新聞社記者(三好 正文 氏・名倉あかり 氏)による講演
「震災報道を通じて阪神・淡路大震災を伝える意義」

第2部 パネルディスカッション

パネラー：三好氏、名倉氏、本校教員・雨宮、生徒3名(2年生)、司会進行：安永
テーマ「震災報道を通じて、私たちが学ぶことは何か」

◎第1部の講演を聴いて、「震災報道を通じて、伝える意義」について、大事なことや心に残ったこと、気になったことを書きましょう。

「知らかえりでしない」

安心・安全の情報を届ける、読者を上げようことが大切。

死者1人1人を大切にしている

自分の命が第一

◎第2部のパネルディスカッションを聴いて、「震災報道を通じて、私たちが学ぶことは何か」について、大事なことや心に残ったこと、気になったことを書きましょう。

一つ一つの災害へと学ばなければなりません

↓

自分の命を守ることにつながる。

◎最後に、本日の「防災学習」の感想を書きましょう。

名倉氏の話を聞き、被災者じゃなくても、関心を持て、受けついでいく必要があると思った。

また、自分が生きていた時に、地震が起った時、被災者たちの体験などを参考にして、自分の命を守りたいと思えた。

兵庫教育大学附属中学校『防災学習』

3年

番名前

◎日時 令和3年1月18日(月) 5限・6限

○内容：第1部 神戸新聞社記者(三好 正文 氏・名倉あかり 氏)による講演

「震災報道を通じて阪神・淡路大震災を伝える意義」

第2部 パネルディスカッション

パネラー：三好氏、名倉氏、本校教員・雨宮、生徒3名(2年生)、司会進行：安永

テーマ「震災報道を通じて、私たちが学ぶことは何か」

◎第1部の講演を聴いて、「震災報道を通じて、伝える意義」について、大事なことや心に残ったこと、気になったことを書きましょう。

自分が亡くなつたのであれば、近い人に出来事を語ってもらいたい。

シアターなどじで地震を体験し、その亡くなつた人を思うことを大切にすること。
→自分が少しでも悲しきによりをえるようになる。

亡くなつた人に伝えて、悲しきや恐怖を感じさせ、危険性を学ぶ。

亡くなつた人の気持ちを考える

家族などを失つた人の気持ちを考える。

◎第2部のパネルディスカッションを聴いて、「震災報道を通じて、私たちが学ぶことは何か」について、大事なことや心に残ったこと、気になったことを書きましょう。

昔の人々の苦しきや悲しき

→二度と体験しないために対策をとる。

次に災害がさても被害を小さくする。

現状をよくして、冷静に行動する

◎最後に、本日の「防災学習」の感想を書きましょう。

私は配られた新聞を読み、すこしく悲しかった。ずっと側にいたから、もっともっと未来がある子どもなどとなくして聞くと、胸がすこしくいたんだ。

私は、一度も、地震や津波、火災を経験したことがない。だから、毎年1月17日を迎えるが、どこか遠い国のように感じていた。でも、今回、もっともっと真げんに考えてみた。

もし、自分の家族を失つてしまつたら...。目の前で苦しんで「助けて。助けて。」と泣いていたら...。なにも、できぬい自分。あとからあとから、悔いが込みあげてくるんだ。ううな、一生自分でせめ続げるんだよと見た。阪神淡路大震災で、家族や友人を失つた人は、実際に大切な人を失つし、今でも、ずっと悲しく苦しい思いをしていろと本当に、悲しい。

私達には、その人達の苦しきとなくすることはできなくとも、次再び大きな災害が来ても、誰も死はせず、悲しい人を少なくてすみとつながるだよと思つた。

兵庫教育大学附属中学校『防災学習』

3年

番名前

◎日時 令和3年1月18日(月) 5限・6限

○内容：第1部 神戸新聞社記者(三好 正文 氏・名倉あかり 氏)による講演
「震災報道を通じて阪神・淡路大震災を伝える意義」

第2部 パネルディスカッション

パネラー：三好氏、名倉氏、本校教員・雨宮、生徒3名(2年生)、司会進行：安永
テーマ「震災報道を通じて、私たちが学ぶことは何か」

◎第1部の講演を聴いて、「震災報道を通じて、伝える意義」について、大事なことや心に残ったこと、気になったことを書きましょう。

知ったかぶりをしない
新聞で伝える ←
安全安心の情報
1人1人の報道

「備え」にゴールはない

→ 読者を安心させる

被災者に話を聞くことの実感する

遺族の方々泣いていた

→ 取材ができない

(たくさん泣いて方に失礼
伝えることが大切)

〈画像〉

階下の3階で倒れていたり、ビルが倒れたりして、倒れた

◎第2部のパネルディスカッションを聴いて、「震災報道を通じて、私たちが学ぶことは何か」について、大事なことや心に残ったこと、気になったことを書きましょう。

震災の怖さをますます知るなど

避難訓練 → 話し合う(家族)

〈映像を見て〉

・地震の強さ、そして物が落ちたり倒れたり、窓が割れたりするところを見て、やつぱりこわいと思いました。

◎最後に、本日の「防災学習」の感想を書きましょう。

今回、地震の写真や、被災者の話を聞いて、本当に怖いと思いました。記者として、どういう行動が正しいのかが分からなかった中、被災者から話を聞いた時、読者にどう伝えたらいいのか考えたりするのか「可憲」と思う。それを聞いて、「けで」「もつら」の人は、いくつも質問をして、つらくて、悲しい仕事を「と思うけれど」、それで「もく伝えよ」との大切さを考えている記者の方を私は尊敬します。今、私たちが生きる(例えば、家族との話合い、食料、避難訓練など)人の命、第一に自分の命を守れるように備えろことを大切だと思いました。災害はいつ、どこでくるのか分からぬからこそ、命を守れるようにする。今、過ごせていることに感謝しながら毎日を過ごすこと忘れないようにする。

兵庫教育大学附属中学校『防災学習』

3年 番名前

◎日時 令和3年1月18日(月) 5限・6限

○内容：第1部 神戸新聞社記者(三好 正文 氏・名倉あかり 氏)による講演
「震災報道を通じて阪神・淡路大震災を伝える意義」

第2部 パネルディスカッション

パネラー：三好氏、名倉氏、本校教員・雨宮、生徒3名(2年生)、司会進行：安永
テーマ「震災報道を通じて、私たちが学ぶことは何か」

◎第1部の講演を聴いて、「震災報道を通じて、伝える意義」について、大事なことや心に残ったこと、気になったことを書きましょう。

- 遺族の方々が泣いており、取材ができなかった。
→それは、亡くなられた方々に失礼。
- しっかりと聞いて、伝えることが大切。
- 死者などの数字も大切だが、安全・安心な情報を伝えることも大切。読者を安心させることが必要。

◎第2部のパネルディスカッションを聴いて、「震災報道を通じて、私たちが学ぶことは何か」について、大事なことや心に残ったこと、気になったことを書きましょう。

- 日頃から、常に自然災害と一緒に行動していくなければならぬ。
- 一つ一つの災害から学ぶ。→知らないふりをしない、知つておかないといざ自分が行動するときに、できなくなる。

◎最後に、本日の「防災学習」の感想を書きましょう。

- 避難する時のための準備や避難所の確認など災害時の行動がいかに早くできるのか考えなければいけないなと思った。
→この準備や確認を、「あとでいいや」という考え方では、間に合わないから今から行動していかなければいけない。
- 今まであった災害を「興味がない」、「知つても無駄」などという考えで知らないとしないのは、被災者の方々に失敗したし、自分も死ぬかもしれないのに、その考えは持っていてはいけないを感じた。

兵庫教育大学附属中学校『防災学習』

3年 番名前

◎日時 令和3年1月18日(月) 5限・6限

○内容：第1部 神戸新聞社記者(三好 正文 氏・名倉あかり 氏)による講演
「震災報道を通じて阪神・淡路大震災を伝える意義」

第2部 パネルディスカッション

パネラー：三好氏、名倉氏、本校教員・雨宮、生徒3名(2年生)、司会進行：安永
テーマ「震災報道を通じて、私たちが学ぶことは何か」

◎第1部の講演を聴いて、「震災報道を通じて、伝える意義」について、大事なことや心に残ったこと、気になったことを書きましょう。

あの子供がどこで死んだのか知るくらい聞いた。
ガラスが一気に割りれる、机の上の物がすっと落ちる。

約6000人ではなく糸田が6434人→1人1人がもと生きたから。
「自分の命をどう守るか」を最重要に考える。

◎第2部のパネルディスカッションを聴いて、「震災報道を通じて、私たちが学ぶことは何か」について、大事なことや心に残ったこと、気になったことを書きましょう。

常に非難する道を確認していないと地震が走ってきて
パニック状態になれば絶対に思い出せないから、
日々、頭に入れておく。自分の命は自分で守る。
この思いをつなぐ

◎最後に、本日の「防災学習」の感想を書きましょう。

自分達はこれまで災害という大きな出来事は起きなかたけど
その時に生きていた人がメッセージや思いを残している。
だから僕達はこれらを次へと「つなぐ」ことが使命だと
思う。

兵庫教育大学附属中学校『防災学習』

3年 香名前

◎日時 令和3年1月18日(月) 5限・6限

○内容：第1部 神戸新聞社記者(三好 正文 氏・名倉あかり 氏)による講演
「震災報道を通じて阪神・淡路大震災を伝える意義」

第2部 パネルディスカッション

パネラー：三好氏、名倉氏、本校教員・雨宮、生徒3名(2年生)、司会進行：安永
テーマ「震災報道を通じて、私たちが学ぶことは何か」

◎第1部の講演を聴いて、「震災報道を通じて、伝える意義」について、大事なことや心に残ったこと、気になったことを書きましょう。

取材により学んだことのために、ソーシャルネットを通じて多くの人々が多くの経験をするの大変だと思った。被災して本人がそれを伝えたのは大変であると学んだ。一人一人の人生を尊重して東京で伝えるのが大切だと学んだ。

◎第2部のパネルディスカッションを聴いて、「震災報道を通じて、私たちが学ぶことは何か」について、大事なことや心に残ったこと、気になったことを書きましょう。

地震で窓ガラスが割れた。→ やはり地震や…。

しかし、冷静に、落ち着いて行動すべし。

目の前の被災者、遺体の方々に対し、逃げ方最後までしっかりと向き合わなければならぬ。

家族、仲間と避難する計画等を立てなくてはいけない。

「あの日」からの約1ヶ月のオーバーは、95/1/17までの人の人生である。

◎最後に、本日の「防災学習」の感想を書きましょう。

私の知らざる災害をより知りたい、その気持ちが強くなる。

自分の軽い考え方のせいで身を守れず等のことからすくにしていく。

神戸が今の様に美しい町に戻つたのは、それらの苦しみを背負ってから前を向き、力を合わせてこの人口をたれなくする。

人に頼らず、全て自分で行動し、決断しなければならぬ状況下に置かれた時しっかり対応できるようになら。

備えはグッズや無い。それよりも頭にがん、生活して生き抜くと思う。

兵庫教育大学附属中学校『防災学習』

3年番名前

◎日 時 令和3年1月18日(月) 5限・6限

○内容：第1部 神戸新聞社記者（三好 正文 氏・名倉あかり 氏）による講演
「震災報道を通じて阪神・淡路大震災を伝える意義」

第2部 パネルディスカッション

パネラー：三好氏、名倉氏、本校教員・雨宮、生徒3名（2年生）、司会進行：安永
テーマ「震災報道を通じて、私たちが学ぶことは何か」

◎第1部の講演を聴いて、「震災報道を通じて、伝える意義」について、大事なことや心に残ったこと、気になったことを書きましょう。

新聞者や、報道関係者が倒れて亡くなる人は、どうしてかとかかっても、因って113人が死んでいます。この状況を伝えなければならぬならば、どううはとおもひます。おらたぬでなくなりました。そして、私がもし被害にならなければ、それが何かな人よりも自分の命を守ることを意識して、自分は、人を助ける113人に倒れたりしておる。

◎第2部のパネルディスカッションを聴いて、「震災報道を通じて、私たちが学ぶことは何か」について、大事なことや心に残ったこと、気になったことを書きましょう。

おしゃれな備えで、2毛足りるだけ

○ さて、今後災害も、大きめ災害も価値は変わらないので、12月の災害
から、しっかりと年次災害計画を立てよう。

○自らの脚色による序文序3

★自助、互助、共助

新聞省で大騒ぎ
かどりせんこう!!
回りからどひんせんこう
どう、眞の本質が理解

◎最後に、本日の「防災学習」の感想を書きましょう。

⑩最後に、本日の「防災字幕」の意味を書きなさい。

私たちは、どんなときにあっても過去の災害から、目をそむけてはいけないときと、そこからも伝え続けなければならないときと、新聞記者は将来からではなく、過去の出来事を伝えつつ、その意味を人間に伝えようとする人間である。